《美術史料紹介》

東寺観智院金剛蔵本（建武二年写）『諸説不同記』巻第八（上）
解題・翻刻・校註・影印

津田 徹英、加藤 詩乃、石井 千紘、上村 顕太郎、蔀 政人

最外（外金剛部）院をめぐる問題（その一）

『諸説不同記』は法三宮真寂（八八六～九二七）の撰述になる。それは空海が請来した「現圖」胎蔵曼荼羅にあらわれた諸尊の尊容の特徴を一尊ずつ簡潔な筆致で記述したものである。本書が「現圖」胎蔵曼荼羅の研究を行う上での現存最古の基本文献であることはいうまでもない。

本書の活字本には、東寺観智院金剛蔵に伝来した建武二年（一三三五）の書写本十帖（以下、建武本）を底本として昭和八年（一九三三）に翻刻したものが『大正新脩大蔵経』図像第一巻に収録されている（以下、大正蔵本）。ところが、この大正蔵本は、大正二年（一九一三）に狩野享吉氏旧蔵の近世写本（現、東北大学図書館狩野文庫本）を底本にして活字化をみた『大日本仏教全書』本（以下、仏全本）をもって対校し、適宜、字句を改めている。しかしながら仏全本は初稿本系に属し、底本となった建武本は真寂自ら初稿本に加筆・改訂が施されて成った再治本であったため、仏全本で建武本を改訂してした結果、再治本系の建武本とも、初稿本系の仏全本とも随所において文言を違えることとなってしまった。しかも、校訂の過程で、どの字句が改められたかについて全く言及が無いため、『諸説不同記』を用いて「現圖」胎蔵曼荼羅の研究を進めてゆくためには、改めて建武本を出来る限り原文に忠実に活字化するとともに、大正蔵本との文字・字句等の異同を明確にしてゆく必要がある。しかしながら、建武本は全十帖からなり、一度にすべての確認作業を完了することは不可能である。自ずと長期的な展望をもって、地道に、かつ、着実に進めて行くことが望ましい。

さて、今回は建武本の巻第八（一帖）の前半（二十二丁表＝「已上門北諸天」まで）を翻刻し、あわせて校註・影印を付す。翻刻に際しては、極力、建武本の原文に忠実な翻刻を行い、校註において大正蔵本との字句の相違について及ぶとともに、以下の二本との文



挿図１　長福寺本の印記

字・字句等の比較検討を行い、異なる場合はその旨を校註に掲げることにした。

ここでいう二本とは、上述の仏全本と、建武本と同じ再治本系の写本とみられる東寺観智院金剛蔵に伝来した旧「長福寺」架蔵の零本（巻五、七、八、九のみ現存）である（以下、長福寺本）。長福寺本は建武本に先行する鎌倉前期に遡る写本とみなされる。現存の各帖には重郭長方形のなかに「長福寺」の名称をともなった印記を墨で押している。ただし、いずれの印記も伝世の過程にあって当該箇所に水分を含ませて擦り消そうとした痕跡が認められるため、印記の内容をすべて把握することは困難であるが、巻第八のそれは比較的、印記をよく伝えている（挿図１）。

以下に、巻第八の前半を翻刻し校註を付して行く作業の過程で気がついたことを覚書風に書き留めておくこととする。

引用の典籍類

巻第八の前半における典籍類の引用は、後掲の「巻第八（前半）引用典籍・口決類一覧」に分類して収載する通りである。その概要を述べておくと、大日経系のものが多くを占める。すなわち、『大日経（大毘盧遮那成仏神変加持経）』、『義釈（毘盧遮那成仏神変加持経義釈）』、『三蔵軌（広大儀軌）』、『青龍寺軌』、『玄法寺軌』、『同』異本（本文中では「爛脱儀軌」もしくは「爛脱軌」の名称であらわれる）[1]がそれに該当する。さらに星宿関係尊への言及に際して、『孔雀経』、『同』梁本、『舎頭諫経』、『攘災決』、『宿曜経』、『大集経』、『宝星陀羅尼経』からの引用があり、このほか『灌頂経』『（法華経）探玄記』、『理趣釈』からの引用がそれぞれ一箇所ずつある。

国書からの引用は、典籍名が不詳ながら丹波国水尾玄静の撰述書からの引用とみられるもの（「禅門云」もしくは「禅門和尚」と表記）、および、安然（八四一頃～九一五頃）撰述の『胎蔵界大法対授記』からの引用（「五大和尚」もしくは「五大院云」と表記）が認められる。また、「神護云」として一箇所引用が認められるがこれも神護寺系の僧侶による撰述書と思われるが出典未詳である。

また、尊位および尊名にかかわって「所伝図」と「坐位図」についての言及がある。前者は『義釈』巻第四に収載される「阿闍梨所伝漫荼羅図位」のことである。後者は「増長天王」に続く「使者」の標題の割註のなかにあらわれるものである。この割註が真寂そのひとによる書き込みであったかどうは判然としないが[2]、『秘蔵記』と密接な関係が認められるものである[3]。

これらのうち引用典籍類の中心をなす『義釈』について、真寂はそれを引用する際、円珍将来の十巻本『義釈』と空海請来の二十巻本『疏（大日経疏）』の両方から適宜引用していることが文言の特

徴から窺われたが、巻第八の前半でもそのことは認めてよい[4]。ただし引用に際して、どちらを用いるか、どのような基準・判断をもってなされていたかついては明確になし難い。

校異・校訂、解釈上の問題

建武本の巻第八は字句の誤写、脱落、衍文が顕著である。後掲の「胎蔵曼荼羅　最外院（巻第八面半　収載分）諸尊異同一覧」を作成するにあたり、各尊容に関する記述に校訂を施しておいたが、その際、字句を改めることの判断根拠については当該一覧の註記において言及した通りである。字句の誤写、脱落、衍文は建武本に至るまでの転写過程で生じたようであるが、どの時点でそれらが生じたかを特定することは難しい。

それらいくつかについて気がついたことを述べておくと、縛斯仙、婆藪仙妃、驕答摩仙、毘哩瞿仙、自在女の「現圖」の装身具の記述中において「瓔珞」と表記すべきところを「纓絡」と表記してい[5]る。建武本において明確に「瓔珞」と表記している箇所とともに改めてこれらを眺めてみるとき（挿図2）、いずれも「王」偏が崩れて「糸」偏のように表記されたようである。建武本の筆者がこれらについて「王」偏と理解していたのか、それとも、もとの文字を「糸」偏と誤認して表記したのか、そのことを明確にすることはできないが、いずれにせよ本来は「瓔珞」であったとみて大過ないであろう。

さらに、建武本より近世本に依拠して翻刻がなされた仏全本の方が正しい表記を伝えていたと思われる箇所も少なくない。それは驕答摩仙の「現圖」における装身具の記述に関して、建武本の「无纓絡、唯有瑠環」と表記することにある[6]。このうち前半の「纓絡」は上述したように「瓔珞」の誤写もしくは翻刻時の誤認とすべきであるが、後半の「瑠環」について、これを「耳瑠」「耳環」と解釈することも文章上では不可能ではない。しかし、「耳瑠」と「耳環」が同時に耳飾としてあらわれることはなく、むしろ、御室版（挿図3）をあわせて参考にするならば、仏全本、長福寺本が当該箇所に腕釧を意味する「釧環」をもって表記していることの方を採るべきであろう。

同様に夜摩女の「或圖」の持物である檀拏幢に関して、建武本では「持人頭棒杖」に続いて「上有環々中青面」と表記する[7]。「或圖」の具体的図様については確認のしようがないが、それが持物の先端にあらわされた人頭を承ける器の記述に関することを思うと、仏全本が「上有杯正中有面」と表記したことの方が素直に持物の先端の形

挿図2「瓔珞」と「纓絡」の表記

[redacted]



挿図３　驕答摩仙（御室版）

状に適うようである。仏全本の記述にしたがうべきであろう。

このほか、大主では左手の記述について「拳叉腰覆掌叉腰」とあり、一文中に「叉腰」が重出する[8]。ただし仏全本、長福寺本では「覆掌叉腰」の四文字が存在しない。一方、阿伽羅伽の尊容に関わる記述についても、「或図左脚押右」が重出する[9]。初稿本系の仏全本では、後出分が記述中に存在しておらず、とすれば建武本における表記はいずれか一方が衍文であると判断できる。ただし、同様の重出は建武本に先行する再治本系の長福寺本においても同様であり、これをひとえに建武本の筆者の責任に帰することはできない。むしろ建武本の筆者は忠実に先行本の字句を墨守したとみるべきであろう。ほかにも、薬叉持明衆の右辺使者について「或圖持独鈷棒、面正向无襆襠」とあり、続いて「或圖正向」と表記しているが[10]、「面正向」とあることと「或圖正向」は同じ事象について述べたようであり、いずれかが衍文といえよう。仏全本、長福寺本の当該箇所では前者の記述に関して「或圖无襆襠」と表記されており、「持独鈷棒、面正向」の記述そのものが存在しない。

なお、大正蔵本の利用に際して注意を喚起しておきたいのは、今回の翻刻と字句の照合作業の過程で、大正蔵本には建武本の記述と異なる翻刻が一箇所確認できた。それは羅睺の「山圖」における二尊の眷属のうちの「一天在外」の記述にある。これについて「着天衣」と大正蔵本では翻刻するが[11]、建武本はもとより先行する再治本系の長福寺本、さらには初稿本系の仏全本においても「着女衣」という表記になっている[12]。「山圖」の具体的な図様については明確でないが、「女衣」が両肩・両臂に及んで上半身を露出しないように纏う「襆襠衣」を意味し[13]、「天衣」が背後から両肩に懸ける細長い帛布を指すことを思えば、両者の相違は甚だしく、「山圖」の具体的図様が確認できない現状にあって大正蔵本における翻刻の信憑性を揺るがすであろう。

真寂の見た「現圖」と御室版との尊容の小異について

ところで、『諸説不同記』の「現圖」諸尊の記述に関して注意しなければならないのは、すでに指摘したように、空海請来の「現圖」胎蔵曼荼羅と真寂が認識し、照合作業を行ったものと、空海請来の「現圖」胎蔵曼荼羅の第二転写本と認識される高雄曼荼羅の図様を白描で伝えた御室版の諸尊図像の間で、個々の尊容のうちに小

異が散見する点にある。[14] 真寂が実見に及んで「現圖」と認識した胎蔵曼荼羅のなかで、この小異が、どの程度及んでいるかを明らかにすることは、本翻刻と校註を付してゆく作業と併行してなすべき重要な課題と考える。

巻第八の前半にあらわれた諸尊の記述を検討するとき、御室版との小異だけでなく、明らかに御室版と一致しない尊容の記述がいくつか存在する。

(1) 小異が認められる尊容

小異が認められるものは、火天、火天后、毘哩瞿仙、阿伽羅伽、自記、薬叉持明衆、同左辺使者に指摘できる。

これらのうち、火天は四臂のうちの左第二手について、真寂の認知を信じれば「舒小指把杖」ということになる。[15] しかし、御室版の当該箇所にあっては、小指（第五指）とともに頭指（第二指）についても伸ばしている（挿図4）。

火天后については、真寂は装身具について「无釧環瑞」と記している。[16] このうち「釧環」が腕釧を指すことは既に述べた通りである。続く「瑞」とは耳瑞を意味するとみられる。つまり、「現圖」はそのいずれも装着していないと真寂は明言している。しかしながら御室版によってみるとき、左手には腕釧、耳には耳環を認めることができる（挿図5）。同様に、毘哩瞿仙に関して真寂は「无纓絡唯著瑞」と記述している。[17] つまり装身具としてはただ耳瑞を着けていたことになる。しかしながら御室版によってみるとき、耳に着けているのは耳瑞ではなく耳環とみなされるであろう。

阿伽羅伽について真寂は、その右手を「拳叉腰」と記す。[18] しかしながら御室版では右大腿上で五指を開いて覆掌としている（挿図6）。なお、御室版は左手先付近が虫損のため判然とせず、真寂が「仰拳大指向下執矛當於腰側」と記述したことのうち、[19] 前半の「仰拳大指向下」については確認ができない。その御室版では交脚とした右膝がやや浮き上がっているが、このことについて真寂の言及はない。

自記にあっては、真寂は左手について「徐垂當臍側向外申小指執蓮上赤珠」と記している。[20] 左手を「向外」し「申小指」とあることは御室版が五指で蓮枝の末端部を握る点において記述と合致しない（挿図7）。加えて、御室版にあっては右膝をややもち上げるが、そのことについても真寂は言及していない。

薬叉持明衆に関しては、真寂はその面相表現について「嚬眉怒目」と記述するが、[21] 御室版（挿図8）では眉根を寄せておらず瞋怒相とは見なし難い。また、同左辺使者の記述に関して、「有瑞、或圖无瑞而著冠繒」とあり、[22] 文脈から冒頭の「有瑞」は「現圖」の記述と考えられよう。このことは御室版（挿図9）にあっても耳瑞を着けており齟齬はない。一方、文末の「而著冠繒」は「或圖」の「无瑞」を承けて、「而著冠繒」ということのように解される。とすれば言外に「有瑞」の「現圖」に関しては「冠繒」を着けてなかったようにも読みとれるのであるが、御室版を眺めるとき、「冠繒」の存在が確認できる。とすれば「而著冠繒」の一文は改めて「現圖」のことを記述したと解されようか。



挿図４　火天 部分（御室版）



挿図６　阿伽羅伽（御室版）



挿図５　火天后 部分（御室版）



挿図９　左辺使者 部分（御室版）



挿図８　薬叉持明衆 部分
（御室版）



挿図７　自記（御室版）



挿図11　自在女右手持物・青蓮花（御室版）



挿図10　毘紐女（御室版）



挿図13 間錯（御室版）



挿図12　摩伽（御室版）

（2）記述と合致しない尊容

一方、真寂の記述したものと明らかに尊容を違えると判断されるものが、毘紐女、摩伽、間錯の持物もしくは様態に認められる。これらのうち、毘紐女に関して、真寂は右手について「拳舒大指向内當臍竪拳當臍持青蓮華」と記述する[23]。確かに御室版においても手勢は適合しているものの、右手に持物の存在は確認できない（挿図10）。これを単純に御室版に至るこの系統の白描図像における描き落としとみてよいかである。ちなみに「青蓮花」を執っていたとするならば、同様に右手において「竪掌屈四指、頭中指間執青蓮花」を明記し[24]、その記述と合致する御室版の自在女の持物（挿図11）が参考となろう。

摩伽と間錯は、いずれも真寂が書き留めた記述と一部合致しないところがある。すなわち摩伽について、真寂は「面向左方」と記述する[25]。しかし、御室版では両耳があらわれているところから、正面向きであらわされているとみなされる（挿図12）。一方、間錯の右腕について、真寂は「臂柱膝上」を明記するが[26]、御室版では右肘先と右膝頭が接しておらず、記述と合致しない（挿図13）。

ここにあげた御室版と真寂の記述との齟齬は、いずれも図様における非常に微細なことがらのようではある。しかし、真寂は『諸説不同記』を構想するにあたって、「現圖」、「或圖」、「山圖」に及んで、三者の微妙な違いに関心をもって留意し記述を行ったことは揺るがない。「現圖」の図像を白描で忠実に伝えるとされる御室版と真寂の記述における齟齬について、これを等閑視する訳にはゆかないのである。

（津田徹英　記）

註

（1）この「爛脱儀軌」「爛脱軌」が『玄法寺儀軌』の異本に当たることは、本翻刻の校註62を参照されたい。

（2）当該の記述は建武本に先行する再治本系の長福寺本、初稿本系の仏全本にも認められるところである。

（3）「坐位図」の詳細については、津田徹英・岡田麻未・竹内沙織「美術史料紹介 東寺観智院金剛蔵本（建武二年写）『諸説不同記』巻第四（上）翻刻・校註・影印」『史友』四〇号、青山学院大学史学会、二〇〇八年で詳述したことがあるので参照されたい。

（4）義釈の引用の箇所は巻第四の阿闍梨所伝曼荼羅図位を別にしても、二十箇所に及ぶ。そのうち引用語彙にあって円珍請来本系の十巻『義釈』の文言（依用した『続天台宗全書』の表記にしたがえば㋑本に相当）の特徴を明確に示し得るものは本翻刻の行番号ならびに校註の17、61、72、143、167、313がこれに該当する。一方、空海請来本系の二十巻『疏』の文言（㋺本に相当）の特徴を示すものは本翻刻の行番号ならびに校註の13、101、111がこれに該当する。

（5）翻刻行番号47～48、54、75、91、127の五箇所。

（6）翻刻行番号75。

（7）翻刻行番号171。

（8）翻刻行番号230～231。

（9）翻刻行番号240、241。

（10）翻刻行番号324、325。

（11）大正蔵図像1―100c。
（12）翻刻行番号ならびに校註222。
（13）「襵襠衣」がまさしく「女衣」であることについては、定金計次「東アジア伝承の胎蔵曼荼羅とインド美術」『図像学Ⅰ―イメージの成立と伝承（密教・垂迹）仏教美術論集2』（竹林舎、二〇一二年）三一頁を参照されたい。
（14）津田徹英「『諸説不同記』と「現圖」胎蔵曼荼羅」『オリジナルの行方―文化財アーカイブ構築のために―』東京文化財研究所、二〇一〇年、一四六～一五〇頁参照。
（15）翻刻行番号27。
（16）翻刻行番号35。
（17）翻刻行番号91～92。
（18）翻刻行番号238～239。
（19）翻刻行番号239～240。
（20）翻刻行番号281。
（21）翻刻行番号315～316。
（22）翻刻行番号327～328。
（23）翻刻行番号138～139。
（24）翻刻行番号128～129。
（25）翻刻行番号262。
（26）翻刻行番号272。

〔付記〕本稿は平成二十八年度青山学院大学大学院文学研究科比較芸術学専攻の履修科目「日本・東洋美術史研究Ⅰ、Ⅱ」を受講した本学の大学院生と輪読した成果である。本書の原本閲覧時には東寺当局のご高配を得た。ここに記して改めて謝意を表す次第であります。

胎蔵曼荼羅　最外院（巻第八前半 収載分）諸尊異同一覧

		現　図	或　図	山　図
火天	身　色	深赤、		
	面　相	鬢髪皓白※1、苦行仙形、		
	身　相		肥滿、	
	右一手	仰掌々持三角壇、當胸、		
	右二手	擧肘仰掌、指頭向右、屈頭中名、執數珠鬘※2、	竪肘、向掌、指頭向右、屈四指執、	
	左一手	垂下當於臍側、指頭向下屈四指、頭中指間執持澡瓶、	向内、當腰側、執之（澡瓶）、	
	左二手	擧肘、作拳向身、舒小指、把杖	大擧屈臂竪肘執之（＝杖）、	
	着　衣	被袈裟・黒褻・縵跨・鹿皮裙子・赤褌、	（著）褌子、	
	装身具	无寶冠・瓔珞・環釧等莊嚴、无耳璫、	著釧環、	
	光　背	在火焔中、身在火中、唯有頭光、无身光、		
	坐　法	交脚坐、		交脚而坐、
	台　座	（「氍毹坐」※3）、		氍毹坐上、
火天后	身　色	周身白色、		
	右　手	仰掌、指端向右	拳持執瓶、當腰側、	持火壇、當心、
	左　手	亦如是、向左微屈四指、	仰掌、指頭向左、屈頭中名指、持數珠、	拳叉腰、
	着　衣	被襵衣、以赤褻絡結小腹上、披天衣、	无褻・襵褶、著袈裟衣・天衣、	
	装身具	无釧環・璫、无繒、	（著）瓔珞釧環、	
	光　背	在火焔中、无頭身光、	其焔飄上、	
	坐　法	（「交脚坐」※3）、		
	台　座	（「氍毹坐」※3）、		
縛斯仙	身　相	圍陀苦行神仙形、		
	体　勢	面向左方、		
	右　手	拳舒小指、當腰、持開合蓮、	拳當臍、執開敷蓮、	拳叉腰、
	左　手	開竪肘、拳向身、執珠數鬘、		持花鬘、
	着　衣	不披衣服褌、被著鹿皮及赤縵跨、	披著袈裟・褌子、	
	装身具	（不披）瓔珞等※4、		
	坐　法	竪左膝坐、		
	台　座	（「氍毹坐」※3）、		
婆藪仙妃	体　勢	面向左方、		
	右　手	竪拳、執一荷葉一合蓮、	竪掌、屈頭中指、執荷葉、	
	左　手	覆拳、當腰、執開合蓮、	開蓮、	
	着　衣	被襵襠、女衣、上著袈裟、	唯披袈裟、	
	装身具	无釧環・瓔珞※4等、不著冠繒、	（披）瓔珞・環釧、	
	台　座	（「氍毹坐」※3）、		長跪、
阿詣羅仙	身　相	（「圍陀苦行神仙形」※5）、		
	体　勢	面向右方、		
	右　手	側竪掌、屈頭中名指、小指少屈、當胸、臂柱右膝、	屈頭中名、	右蓮上珠、
	左　手	垂下當臍側、拳持蓮華上置胡瓶、	紺琉璃、	左拳叉腰、
	着　衣	著鹿皮縵袴、		
	坐　法	竪右膝、交脚坐、		
	台　座	（「氍毹坐」※3）、		
驕答摩仙	面　相	女天形也、		
	体　勢	面向右方、		
	右　手	竪掌、微屈四指、	竪掌、中名指微屈當胸、	
	左　手	當臍仰掌、垂指中名小指微屈、	側覆掌、當胸、	拳叉腰、
	着　衣	著襵襠衣・袈裟、	唯著袈裟、	
	装身具	无瓔珞※4、唯有釧環※6、	（著）瓔珞※4・環釧、	
	台　座	（「氍毹坐」※3）、		蓮葉為座、
阿跋哩仙	面　相	（「圍陀苦行神仙形」※5）、		
	体　勢	面向右方、		
	右　手	覆拳當心、以臂柱膝、	覆掌餘同、	

	左　手	當臍持澡瓶、	紺色胡瓶、	當腰持蓮上瓶、
	坐　法	竪右膝、交脚而坐、		長跪、
毘哩瞿仙	体　勢	向内、		
	右　手	（両手）持矛、	作拳、當妳、執釵、	
	左　手		覆掌、置之臍下、	
	着　衣	著襆褊衣・袈裟、	唯披袈裟、	
	装身具	无瓔珞※4、唯著瑞、	有釧環、無瓔珞※7、	
	坐　法	長跪、	交脚而坐、	
	台　座	（「氈毾坐」※3）、		坐蓮葉、
	（付記）			此次有四仙、 一在内者、仙形、右手持数珠、左手拳仰置腰、長跪、 一在外者、女形、著女衣、右拳叉腰、左拳舒頭指向身當胸、長跪坐荷、 一在内者、仙形、右持数珠、左拳叉腰、長跪、 一在外者、著女衣、兩拳當胸、
自在女	体　勢	面少向右下、視毘紐女、	正向※8、	
	右　手	竪掌、屈四指、頭中指間執青蓮花、	竪掌、屈頭中指、	
	左　手	掌向内、四指微屈、	向内、持三肶戟、	
	着　衣	女衣、縵跨著腹、	披袈裟衣、	
	装身具	无瓔珞※4等、	唯有瓔珞※9、	
	坐　法	（「交脚坐」※3）、	左脚押右而坐、	
	台　座	（「氈毾坐」※3）、		
毘紐女	体　勢	面向左方、目瞻夜摩女也、		
	右　手	拳舒大指、向内當臍、竪拳當臍、持青蓮華、		拳叉腰、
	左　手	仰掌、四指微屈指端、	掌持赤珠、餘同、	蓮上輪、
	着　衣	縵跨著腹、无袈裟、	唯著袈裟	被女衣、
	装身具	（无）瑞、	无頚瓔珞※8,10、	
	坐　法	（「交脚坐」※3）、		
	台　座	（「氈毾坐」※3）、		
夜摩女	体　勢	目瞻毘紐女、		
	右　手	開肘、掌持白杯、		
	左　手	持三古戟、	向内、持人頭棒杖、上有杯中有面※11、	持矛、
	着　衣			女衣、
	装身具	无冠繒、		
	坐　法	（「交脚坐」※3）、	左脚押右、竪左膝坐、	
	台　座	（「氈毾坐」※3）、		
賢瓶	様　態	赤馬脳寶瓶、口挿三含蓮花、	（瓶口）无（蓮華）、	
魔掲	様　態	大魚形也、張口擧尾、頭内尾外、		
二魚	様　態	二魚形也、一魚在東向南、一魚在西向北、	在東者向内、在西者向外、	
羅睺	様　態	有一人頭、		
	身　色	其色深赤、		
	面　相	髪髻冠、怒目開口、	被髪、不開口、	（被髪、不開口）※12、
	両　手	竪掌、向外當耳、	仰掌、著於顎下、	（仰掌、著於顎下）※12、
	光　背	无光焔、		
	（付記）			此次有二天、 一天^{在内}仙形、右持書巻、左拳覆置臍下、坐荷、 一天^{在外}着女衣、両手拱、長跪坐、

大主	身　色			
	体　勢	面向俛右、		
	右　手	仰掌、指頭向左、中无名指大指相捻、	屈中名小指、餘同、	執蓮、
	左　手	拳叉腰覆掌※13、		如現圖、
	坐　法	左脚押右、	如常※14、	
阿伽羅伽	体　勢	面向右方、	面向右方太下視、	
	右　手	拳叉腰、	下垂當腰側竪掌、微屈四指、	
	左　手	仰拳、大指向下、執矛、當於腰側、		
	坐　法	(「交脚坐」※3)、	左脚押右※15、	
	台　座	(「氍毹坐」※3)、		
訶悉多	体　勢	目視左方、	正視、	
	右　手	覆掌、當心、	竪掌、屈頭中名、執蓮上青珠、	右手執三胎杵、
	左　手	竪掌、屈頭中指、執蓮々上赤珠※16、	仰掌當臍、大指微屈、	竪掌向外、
	装身具	著耳環、	无瑞、	
	坐　法	(「交脚坐」※3)、	左脚在上、	竪左膝※17、
	台　座	(「氍毹坐」※3)、		坐荷、
摩伽	体　勢	面向左方、	面左、	
	右　手	向内、執蓮上赤珠、	竪掌向外、屈頭中名執（珠)、	(執）蓮、
	左　手	拳叉腰、	仰拳、頭指鉤屈置於臍下、	如始圖※18、
	坐　法	竪右膝、交脚坐、	右同、以左脚置右足上、	
	台　座	(「氍毹坐」※3)、		
間錯	右　手	竪掌、向外屈頭中名指、臂柱膝上、	竪拳、執蓮上赤珠、	(執）蓮、
	左　手	垂下向内當臍、執蓮上赤珠、	仰掌、垂指々端少屈、	拳叉腰、
	装身具	无冠繒、		
	坐　法	竪右膝坐、	交膝而坐、	
自記	体　勢	身向内院、	向左視果徳、	
	右　手	竪掌、屈頭中名指、小指少開、	竪掌向外、屈頭中名、執蓮上赤珠、	(執）蓮、
	左　手	徐垂當臍側向外、申小指、執蓮上赤珠、	至右脇向内、持蓮茎、	拳叉腰、
	坐　法	竪右膝交坐※19、	竪左膝坐、	
		(「氍毹坐」※3)、		
果徳	体　勢	身向内、		
	右　手	竪掌、屈无名指、以頭指著中指背、	拳叉腰側、	(執）蓮、
	左　手	當臍向内、執蓮上赤珠、	向内、執蓮上緑珠、	叉（腰)、
	装身具	无冠繒、		
	坐　法	少立左膝、	左脚押右、	
	台　座	坐荷、		
質怛羅	体　勢	身向内坐、	正向、	
	右　手	竪掌、屈頭中名指、執蓮上赤珠、	(執蓮上）白珠、	(執）蓮、
	左　手	至右脇向内、持蓮華茎、	仰掌、大指少立安臍側、	(脱文あるか)、
	装身具	无冠繒、		
	坐　法	少竪右膝、交脚、	右脚押左※20、交坐、	
	台　座	(「氍毹坐」※3)、		
尾舎佉	体　勢	身向内、		
	右　手	屈臂仰掌、垂指々頭微屈、舒大指揲開※21、以臂拄膝上、	竪掌、屈頭中名、執蓮上青珠、	拳覆心左、
	左　手	拳當妳下、持蓮上赤珠、	覆掌、指頭少垂置於臍下、	(執）蓮、
	坐　法	蹲坐、少竪右脚、交坐、		
	台　座	(「氍毹坐」※3)、		
薬叉持明衆	身　色	周身黄色、	赤肉色、	
	面　相	嚬眉怒目※22、		
	体　勢	向内院、		
	右　手	屈臂、當於妳上竪拳、把釵、	向内、當乳房下、持之（＝釵)、	(持）釵、
	左　手	垂下當於腰側、竪掌、頭中名指微屈、	掌叉腰側、	拳叉腰、
	着　衣	著天衣※23、従前掩肩至後下垂※24、不披袈裟、冠繒二端向上、	著天衣・袈裟衣、如常相、	
	装身具	耳著金瑞、	无繒・瑞、	
	坐　法	(「交脚坐」※3)、	左脚押右、交坐、	
	台　座	(「氍毹坐」※4)、		

同 右邊使者	体　勢	面向左、	面正向、	身向内院、面向左視尊、
	右　手	屈臂當妳上、仰掌、少屈四指、於掌竪獨貼杵、	竪掌、屈頭中名執金栓本、	（執）蓮、
	左　手	拳向心、	持独鈷棒、	叉（腰）、
	着　衣	著被襵襠・袈裟、无冠繒、	无襵襠、	
	坐　法	峻跪而坐、		
	台　座	（「氍毹坐」※3）、		
同 左邊使者	体　勢	下向内院、		
	右　手	竪拳執矛、		（持）釵、
	左　手	向内執矛、	同持三叉戟、	拳當胸、
	装身具	有耳璫※25、	无璫而著冠繒、	
	坐　法	立、		
	台　座	无座、		
増長天王	色　色	通身赤肉色、	肉色、	赤色、
	面　相	目怒視、	有鬢髯※26、	
	体　勢		面向右方、	
	右　手	拳當妳下持釵、	向身持（釵）、	
	左　手	拳叉腰、	舒掌叉腰、	
	着　衣	被著甲冑、肩上著緋端、		
	台　座	（「氍毹坐」※3）、	无座、	
使者	身　色	黒色、		赤色、
	面　相	鬼形、火髪聳上、怒目、牛耳、上齒咬脣、	人耳、	
	体　勢	向内院坐、		
	両　手	持一刀、	（持）棒、	
	坐　法	長跪、		
	台　座	无座、		

※ 1観智院本は「鬢髪」と表記するが、仏全本と長福寺は「鬚髪」と表記。
※ 2観智院本は「執數珠鬘」と表記するが、仏全本は「鬘」の文字がない。
※ 3「山圖氍毹坐上交脚而坐」に続いて「以下諸天多坐此座、又皆作交脚坐、異此者記」とあり、御室版を参照しながら坐法・台座に言及のない「現圖」の各尊の当該項目に「　」を付して付記した。
※ 4観智院本は「纓絡」と表記するが、「瓔珞」の誤写と判断した。
※ 5縛斯仙の項に記された「已下三仙、圍陀苦行神仙形也」とあることを関係尊の項目に「　」を付して割り振った。
※ 6観智院本は「瑠環」、仏全本と長福寺本は「釧瑠」と表記。御室版を考慮して腕釧を意味する「釧環」の誤写と判断した。
※ 7観智院本は「瓔瑠」、長福寺本では「纓瑠」と表記。「瓔珞」の誤写とみるべきか。
※ 8「此圖」を直前に言及のある「或圖」のことと判断した。
※ 9観智院本は「纓環」と表記するが、仏全本は「纓絡」と表記。「瓔珞」の誤写とみるべきか。
※10観智院本は「无頊纓」と表記するが、長福寺本は「無頊纓瑠」と表記。「纓瑠」は「瓔珞」の誤写・脱字とみるべきか。
※11観智院本は「環々中青面」とする。仏全本の表記「杯正中有面」に従った。
※12原文に「山圖与或圖大同小異也」とあることにもとづく。
※13原文は一文中に二度「叉腰」とあり、前出分もしくは後出分のいずれかを衍字と判断。ひとまず後者を削除した。
※14或圖の坐法を「如常」とすることについて、交脚坐が「右脚押左脚」となるものと考えたい。
※15原文に重出する「或圖左脚押右」は、転写過程での衍文と判断した。
※16観智院本は「執蓮上々上赤珠」と表記。ここでは仏全本・長福寺本の表記に従った。
※17御室版を考慮して原文の「竪左膝、坐荷」までは、直前から言及のある「山図」のことと解した。
※18原文は「如始圖」とあるが、意味は不詳。
※19原文は「或圖竪右膝交坐、竪左膝坐」と表記。御室版を考慮して「竪右膝交坐、或圖竪左膝坐」と判断した。
※20原文は「或圖右脚押右」と表記。意味を考慮して「或圖右脚押左」の誤写と判断した。
※21原文は「操開」とあるが、意味を考慮して「撲開」の誤写と判断した。
※22原文は「頻」とあるが、意味を考慮して仏全本の表記に従った。
※23観智院本は「著衣」の「著」と「衣」の間の傍らに「天」の一文字を補記。仏全本と長福寺本は「著天衣」を明記。
※24仏全本、長福寺本にもとづき「掩」の一字を補った。
※25仏全本、長福寺本にもとづき「耳」の一字を補った。
※26原文に見える「有鬢髯」は、御室版を考慮して或圖の記述と判断した。

『諸説不同記』巻第八（前半）翻刻・校註・影印

《凡例》

以下に東寺観智院金剛蔵本『諸説不同記』（特一四箱一八号）巻第八（一帖）の前半について翻刻する。翻刻にあたっては次の点に配慮した。

一、本文の行取り・使用漢字は出来る限り原本通りとした。ただし文字数が多く一行で収まらない場合は無理をせず次行に折り返した。底本では、それぞれの尊名、梵号、密号、三摩耶形の書き出しの位置が一定しておらず、翻刻にあたっては尊号の書き出しの位置を本文の書き出しと同じ高さに揃え、梵号、密号、三摩耶形の書き出しは、それぞれ一字下げに統一した。

二、底本において使用された異体字のうち、正字に改めたものは従前通りである『史友』四号七二頁参照）。

三、翻刻した本文各行の下には通し番号を付した。この番号はそのまま行番号を兼ねるとともに、後掲の校訂註（校註）の番号と対応する。なお、当該行に註記等の必要がない場合は空欄のままとした。

四、本文中の誤字・脱字について、伝世の過程で付されたみられる訂正・書き込みのすべてについて、翻刻した本文中には示さず、後掲の当該行校注において【書き込みを明示して記した。

五、『諸説不同記』諸本との対校により誤字・脱字が明らかな場合においても原本のままとし、当該行校註において、その旨を示した。また、文字や字句が諸本と異なる場合も、当該行校註において対校に用いた『諸説』諸本とその略称は以下の通りである。

観智院金剛蔵本を底本とし、『大日本仏教全書』によって適宜対校し、一九三一年に翻刻刊行。

・仏全本　『大日本仏教全書』　東北大学図書館狩野文庫本を底本として、一九三一年に翻刻刊行。

・長福寺本　東寺観智院金剛蔵本『諸説不同記』第八（四）〇箱第七号、院政期～鎌倉初期写）。

六、本文中にあらわれた難読文字については、『類聚名義抄』の訓を当該行校註に補足として掲げた。使用した『類聚名義抄』は、正宗敦夫校訂『類聚名義抄』（風間書房、一九七八年）に拠った。

七、頁（葉）ごとに「」を附して頁数を示すとともに、その表は、裏はウと表記した。

八、本文中、各尊の冒頭にある白描の三昧耶形（図）は版組の都合上、翻刻文の後に一括して掲げた。

九、原本と翻刻・校註のあとに影印（モノクロ写真図版）を掲げた。

巻第八（一帖）の前半について翻刻する。翻刻にあたっては次の点に配慮した。

一、本文の行取り・使用漢字は出来る限り原本通りとした。ただし文字数が多く一行で収まらない場合は無理をせず次行に折り返した。底本では、それぞれの尊名、梵号、密号、三摩耶形の書き出しの位置が一定しておらず、翻刻にあたっては尊号の書き出しの位置を本文の書き出しと同じ高さに揃え、梵号、密号、三摩耶形の書き出しは、それぞれ一字下げに統一した。

二、底本において使用された異体字のうち、正字に改めたものは従前通りである『史友』四号七二頁参照）。

三、翻刻した本文各行の下には通し番号を付した。この番号はそのまま行番号を兼ねるとともに、後掲の校訂註（校註）の番号と対応する。なお、当該行に註記等の必要がない場合は空欄のままとした。

四、本文中の誤字・脱字について、伝世の過程で付されたみられる訂正・書き込みのすべてについて、翻刻した本文中には示さず、後掲の当該行校注において【書き込みを明示して記した。

五、『諸説不同記』諸本との対校により誤字・脱字が明らかな場合においても原本のままとし、当該行校註において、その旨を示した。また、文字や字句が諸本と異なる場合も、その旨を示した。対校に用いた『諸説』諸本とその略称は以下の通りである。

観智院金剛蔵本を底本とし、『大日本仏教全書』によって適宜対校し、一九三一年に翻刻刊行。

・仏全本　『大日本仏教全書』　東北大学図書館狩野文庫本を底本として、一九三一年に翻刻刊行。

・長福寺本　東寺観智院金剛蔵本『諸説不同記』第八（四）〇箱第七号、院政期～鎌倉初期写）。

・大正蔵　『大正蔵新脩大蔵経』図像第一巻所収本（この東寺本不同記』諸本とその略称は以下の通りである。

六、本文中にあらわれた難読文字については、『類聚名義抄』の訓を当該行校註に補足として掲げた。使用した『類聚名義抄』は、正宗敦夫校訂『類聚名義抄』（風間書房、一九七八年）に拠った。

七、頁（葉）ごとに「」を附して頁数を示すとともに、その表は、裏はウと表記した。

八、本文中、各尊の冒頭にある白描の三昧耶形（図）は版組の都合上、翻刻文の後に一括して掲げた。

九、原本と翻刻・校註のあとに影印（モノクロ写真図版）を掲げた。

十、大正蔵本ならびに仏全本は、旧字体で表記をしており、用文字の違いも校訂註の対象とした。ただし、以下の文字については翻刻に際しての煩雑を避けるため、その異同については明示しなかった。

教、務、専、虚、飾、悦、鋭、説、兼、益、平、半、起、歩、節、即、増、僧、逢、通、迦、遍、遮、連、荘、遊、猶、害、弱、強、曜、横、黄、尚、算、思、青、請、清、情、静、状、将、熙、浮、誤、廻、坐、座、雑、者、挿、并、拳、乳、灰、祖、視、祥、練、縁、絶、豊、悪、亜、徳、瓦、神、福、隠、忍、普、悩、習、曜、横、黄、尚、算、思、青、請、清、情、静、状、将、

東寺観智院金剛蔵本建武二年写『諸説不同記』巻第八（上）解題・翻刻・校註・影印

形、无寶冠瓔珞釧等莊嚴、唯被袈裟黒繧繝跨鹿皮裙子赤褌、凡諸天多分无耳璫、若著者記之可知、或圖身相肥滿著釧環褌子、在火焔中、四臂、右手仰掌々持三角、次手擧肘仲掌、指頭向右屈四指、執、左手垂下當於脇側、或圖竪肘向掌指頭向内當於脇側、指頭向下屈四指、間執持澡瓶、或圖向内當腰側、執之、次手擧肘作拳向身舒小指把杖、或圖大擧屈臂、左手仰掌指端向右、右手仰掌指端向左、亦如是向左微屈四指、衣瓔珞釧環、小腹上、披天衣、无釧環璫、或圖无數褵襠、著袈裟衣天、天火天后、現圖在火天右、周身白色被褵襠衣、以赤數絡結、三蔵儀軌云妃后侍左右、所傳圖護方火神已外、別有火天后二、

梵号 種子 阿引 寂静故、

三摩耶形 澡瓶圖 【図】

脚坐、山圖右蓮上珠、左拳叉腰、騎答摩仙

梵号 種子 閻通 乘不可得故、

三摩耶形 手印通 【図】

秘密品云騎答摩、釈云畢儀仙虚空中行欲有二、

滞汗下地生甘蔗、日炙生二子為釈王者是云々、

所傳圖在未建荼大仙之右、現圖在火天左之外、

邊女天形也、著褵襠衣袈裟、无纓絡唯有瓔環、或圖唯著袈裟纓珞釧、右手竪掌微屈四指、左掌中名指微屈當胸、左手側覆掌當胸、山圖左掌叉腰、面向右方、山圖蓮葉為座、阿跋哩仙

梵号 種子 通 軌如々不可得故、

三摩耶形 澡瓶通 【図】

経闕名、五太院云阿跋哩仙、亦名未建荼、禅門云此説非

面向右方、竪右膝交脚而坐、山圖左蓮上瓶、長跪、毘哩瞿仙

梵号 種子 含通 因不可得故、

三摩耶形 刀通 【図】

経闕名、五太院云蘗栗伽仙、亦云毘哩瞿、禅門云非也、

現圖在左、著褵襠衣袈裟、无纓絡唯著、

梵号 種子 含通 因不可得故、

三摩耶形 胡瓶圖 【図】

秘密品云婆私、釈云婆藪仙、即舊云婆私縛仙、即舊云婆藪仙者是云々、

所傳圖云婆私、現圖在仙之右、右手拳舒小指、

絡等、被著鹿皮及赤縵跨、或圖披著袈裟、左手開敷蓮、執持開合蓮、或圖拳當胸腰持開敷蓮、向身執珠數髻、面向左方、竪左膝坐、不披衣服裲襠、或圖披著袈裟、山圖

右拳叉腰、左持花髻、已下三仙圖陀苦行神仙形也、

梵号 種子 含通 因不可得故、

三摩耶形 【図】

経闕名、五太院云蘗栗伽仙、亦云毘哩瞿、禅門云非也、

現圖在仙之右、被襜襠女

経釈不説之、云法等儀軌列名、現圖在仙之右、

三摩耶形 開蓮圖 【図】

梵号 種子 軌通 如々不可得故、

三摩耶形 数珠髻圖 【図】

或圖身光、无頭身光、无縵、或圖其焔飄上、諸天皆不著縵、若著者、中、无頭身光、无縵、或圖其焔飄上、諸天皆不著縵、若著者、

記、

縛斯仙三

梵号 種子 嚩初 語言道断故、

縛斯仙

秘密品云婆私、釈云縛私仙、即舊云婆藪仙者是云々、

所傳圖云婆私、現圖在仙之右、右手拳舒小指、

當腰持開合蓮、執開敷蓮、左手開敷肘拳、或圖拳當胸、向身執珠數髻、面向左方、竪左膝坐、不披衣服裲襠、或圖披著袈裟、山圖

絡等、被著鹿皮及赤縵跨、或圖披著袈裟、左持花髻、已下三仙圖陀苦行神仙形也、

右拳叉腰、左持花髻、已下三仙圖陀苦行神仙形也、

梵号 種子 含通 因不可得故、

三摩耶形 開蓮圖 【図】

経釈不説之、云法等儀軌列名、現圖在仙之右、被襜襠女

梵号 種子 半通 第一義諦不可得故、

阿詣羅仙

方、山圖長跪、不著冠縵、

執荷葉、左手覆拳當腰、開合蓮、或圖開蓮、面向左

釧、右手竪拳一合蓮、或圖竪拳屈頭中指、

衣上著袈裟、无釧環纓絡等、或圖唯披袈裟瓔珞環

璫、或圖唯披袈裟有釧環、無瓔璫、両手持矛、向内（註92）
長跪、或圖右手作拳當妳執釵、左手覆掌置之齋（註93）
下、交脚而坐、山圖坐蓮葉、山圖此次有四仙、一在内者（註94）
仙形右手持数珠、左手拳仰置腰、長跪、一在外者（註95）
女形著女衣、右拳叉腰、左拳舒頭指向身當胸、長（註96）
跪坐荷、一在内者仙形、右持数珠、左拳叉腰、長跪、一（註97）
在外者著女衣、兩拳當胸、秘密品云迦攝、驕答摩、（註98）
未建拏、謁伽、婆私、倪剌婆、各如其次第、應畫（註99）
」（6ウ）
韋陀等、而居火壇内、（註100）
釈云謂迦葉瞿雲仙等皆次第畫之、並在火宅之中（註101）
火院即是三角壇、其中色赤名赤院也、其印如前五通（註102）
仙説四圍陀印是也、此是梵行者秘説、若誦圍陀（註103）
者、見此手印知是何論何部等也、所傳圖火天護方（註104）
神右有火天々后、婆私瑟吒大仙、謁伽、未建荼、瞿（註105）
曇、迦葉大仙、左有諸火仙等、沙摩醯捺羅、捺羅迦、（註106）
芒嚕多、露係多、没栗拏、句嗢誕囊、社咤囉、訖灑（註107）
」（7オ）
也、芒嚢娑、劫微、闕名火神、慕訶嚢私云娑摩醯已童（註108）
女菩薩、比丘衆、菩薩衆、東南蓮華勝徳佛、蓮花（註109）
手菩薩、比丘衆、童男菩薩、（註110）
釈云圖云持明仙者是餘薬力等所成、悉地持明仙者（註111）
皆是専依呪術得悉地人、直云諸仙者皆是圍陀事（註112）
火之類、勤脩苦行成五通神仙、又有夜叉持明、是彼（註113）
類中福徳最勝天趣之所懾者、与世仙人又殊也（註114）
云々、其十二火天経中略説形像、有一神闕名者、但（註115）
」（7ウ）
依諸火天惣相之形、餘如圖中所示也、又云若第三（註116）
院十方佛等各依常相圖之、若作契印當以如来頂（註117）
相、種子則以阿字、若聲聞縁覺一同比丘儀式、是中（註118）
縁覺少差別者、謂或有肉髻等火人之相、若契印（註119）
當用鉢袈裟錫杖等、其具種子字如経中真言所説、（註120）
已上東南隅、（註121）
自在女（註122）
梵号  種子 忙通 我不可得故、（註123）
」（8オ）
三摩耶形 戟圖【図】（註124）
所傳圖云哋捺唎、具縁品云七母、釋云東邊作黒夜（註125）
神及七摩怛里、又云七母皆女鬼也、其形悉皆黒色、現（註126）
圖在仙衆之左、女衣縵跨著腹无纓絡等、或圖披袈（註127）
裟衣、唯有纓環、右手竪掌屈四指、頭中指間執青（註128）
蓮花、或圖竪掌屈頭中指、左手掌向内四指微屈、（註129）
或圖向内持三胎戟、面少向右下視毘紐女、或圖左脚押（註130）
右而坐、此圖正向、（註131）
」（8ウ）
毘紐女（註132）
梵号  種子 忙別通 我不可得故（註133）
三摩耶形 輪【図】（註134）
秘密品云毘瑟女輪印、釈云那羅延作輪印、私案彼（註135）
品列闍摩眷属中、所傳圖云吠瑟拏味、禅門云諸（註136）
軌在西方云々、現圖在自在女左之内、縵跨著腹、无袈（註137）
裟璫、或圖唯著袈裟、此圖无頸纓、右拳舒大指（註138）
向内當斎竪拳當斎持青蓮華、左手仰掌四指微（註139）
」（9オ）
屈指端、或圖掌持赤珠餘同、山圖被女衣、右拳叉（註140）
腰左、蓮上輪、面向左方、目瞻夜摩女也、私云已上二（註141）
尊是七母也、其遮文荼、倶摩利、帝釈女、梵天女、今在（註142）
西方、其倶吠離耶后在北門中、倶肥羅女是歟、蔵品釈（註143）
云、又七母真言是焔摩部生諸鬼魅之類、凡七姉妹（註144）
也、一名  左 悶  拏、二名  嬌 吠  哩、三（註145）
名  吠  瑟拏  微、四名  嬌  摩引  哩、五（註146）
名 印  捺哩、六名 嘮 捺哩、七名 末羅（註147）
」（9ウ）
四弭、此七名皆是真言、今云莽怛哩毘藥則七母通用（註148）
也、所傳圖位七母同在此間、云、遮悶拏、嬌吠唎、吠瑟拏（註149）
味、
嬌唎私云此名略也、燕捺利、哋捺利、末囉弭私云此名、亦略也、理趣釈（註150）
云、七母女天是摩迦羅天眷属也、此天等亦有曼荼（註151）
羅、中央畫摩訶迦羅、以七母天圍繞云々、摩訶迦羅者（註152）
大時義、謂三世无障導義者大、是毘盧舎那法身无（註153）
處不遍、七母天者并梵天母表八供養菩薩、以事（註154）
理顕也云々、孔雀経云十二天母、其名曰没囉、憾銘二合、（註155）
」（10オ）
嘮捺哩二合、嬌摩囉引、吠瑟拏二合、微愛捺哩二合、嚩囉（註156）
四、嬌吠哩、嚩嚕抳、夜弭野、縛葉尾野二合、阿尾顳（註157）
二合耶、摩賀迦囉、今按、其没囉、憾銘梵天女也、矯麼（註158）
囉鳩摩利也、愛捺哩帝釈女、縛嚕抳水天妃、已上圖在西方、（註159）
嘮捺哩自在女、吠瑟拏微毘紐女、夜弭野夜摩女、在南（註160）
方、嬌吠哩倶肥羅女、釈云倶哦離也、在毘沙門方云々、（註161）
今云倶肥羅女也、摩訶迦羅在北方、阿吃顳耶火天后、（註162）
在東南方、其縛羅四是地下天也、嚩葉尾哩可撿、（註163）
」（10ウ）
夜摩女（註164）
梵号 種子 忙別通 我不可得故（註165）
三摩耶形 没蘖羅別通【図】（註166）
秘密品云當知欝摩后、以没揭羅印、釈云七母等天、同（註167）
用没蘖羅印此是也、具縁品釈云閻摩之西閻摩（註168）
后、所傳圖閻摩后在閻摩左、現圖在自在女左邊、（註169）

右手開肘掌持白杯、左奉持三古戟、或圖向内持人
頭棒杖上有環々中青面、山圖女衣、左手持矛、或
」（11オ）
圖左脚押右竪左膝坐、目瞻毘紐女、无冠繒、
賢瓶
梵号 𑖢𑖽𑖨 種子 𑖢𑖽 倶初 離作行故
三摩耶形 宮形
神護云撿大集経月蔵分云護持南閻浮提七星張
翼軫角氐三曜日辰星太白三天僮女綽呵
迦若兜羅、私云現圖曰在東方辰左西方、太白
綽呵迦若在北兜羅在西、又云鳩槃、又云水器神、
」（11ウ）
此経宿曜宮神位与宿曜経同、現圖位宿亦与之同、
其曜及宮神大異也、宿曜経云凡十二宮神即七
曜之躔、次各有神形以彰宮之象也、又一宮配管列
宿九足云々、日月諸曜衆生業力置於空中乗風
而止當須弥之半邊乾陀羅之上運行於二十七
宿十二宮神、又云第七宮虚二足危四足室三足鎮
星位焉、其神如瓶、故名瓶宮、大集経云鳩槃、具縁
品釈云言宿直者謂二十七宿也、分周天作十二房
」（12オ）
猶如此間十二次、毎次有九足周天凡一百八足毎宿
均得四足即是云々、今案具縁品釈三蔵軌等月
夫眷属有廿八宿十二宮神、皆在西□毘方、所傳圖
主十二宮神、亦在西方、玄法儀軌依現圖列之、密印
品説一切執印真言儀軌為七曜十二宮神九執真言、
現圖在毘紐女之左、赤馬脳寶瓶口插三含蓮花、或
圖无、
魔掲
」（12ウ）
梵号 𑖢𑖽𑖨 種子 𑖢𑖽 麼初 吾我不可得故、
三摩耶形 宮形
月蔵経云摩伽羅、又云摩謁神、孔雀経云摩謁、梁
本云鯨、又云摩柯羅鱔魚、灌頂経云摩伽婁、宿曜
云第六宮、斗三足、女四足、虚二足、鎮星位焉、其神（註200）
如磨故名磨宮、現圖在夜摩女之左、大魚形也、張口擧（註201）
尾、頭内尾外、
二魚
」（13オ）
梵号 𑖢𑖽 種子 𑖢𑖽 弭初 我不可得故、
三摩耶形 宮形
月蔵経云弥那、宿曜云第八宮、室一足、壁四足、奎四（註206）
足、歳星位焉、其神如魚故名魚宮、現圖在賢瓶左、二魚
形也、一魚在東向南、一魚在西向北、或圖在東者向内、在（註208）
西者向外、
羅睺
」（13ウ）
梵号 𑖢𑖽𑖨 種子 𑖢 囉初 離一切諸塵染故、
三摩耶形 宮形
攘災決云常隠行不見逢日月則蝕、謂之暗虚、
常遅行於天行無徐疾十八年一周天、具縁品釋
三蔵軌等九執皆在東方、爲日天眷属也、玄法儀軌
依現圖列、釈曰仡嘌呵、此別是一趣、非人非鬼也、能恐
怖人非人所持者是也、今非此也、是曜若近宿即合九
執爲定也、現圖在摩羯左有一人頭、其色深赤髪髻冠、
怒目開口、有二手竪掌向外當耳、无光焔、或圖被髪、
」（14オ）
不開口、二手仰掌著於顎下、山圖与或圖大同小異也、
山圖此次有二天、一天在内仙形、右持書巻、左拳覆置
斎下、坐荷、一天在外着女衣、両手拱、長跪坐、
大主
」（14ウ）
梵号 𑖢𑖽𑖨 種子 𑖢 初 三摩耶形 瓶口
星通【図】
私云此尊歳星、宿曜経云木精歳星、胡名嗢没斯、彼
斯名本森勿、天竺名勿哩訶上婆跛底二合、又云空精
廣九由旬、攘災決云径一百里、其色青、光明十二年一周
天強、現圖在二魚左、右手仰掌、指頭向左中无
名指大指相捻、或圖屈中名小指餘同、左拳叉腰
覆掌叉腰、山圖右手執蓮左如現圖、面向俛右、左
脚押右、或圖如常、
阿伽羅伽
」（15オ）
梵号 𑖢𑖽𑖨 種子 𑖢 阿初 本不生故、
三摩耶形 戟圖【図】
宿曜経云火精熒惑、胡名雲漢、波斯名勢森勿、
天竺名盆誐囉迦、又云廣七由旬、攘災決云径七十
里、其色赤明二年一周天強、現圖在羅睺左、右拳
叉腰、或圖下垂當腰側竪掌微屈四指、左手仰拳
大指向下執矛當於腰側面向右方、或圖左脚押右、
面向右方太下視、或圖左脚押右、
訶悉多
」（15ウ）
梵号 𑖢𑖽𑖨 種子 𑖢 賀初 因不可得故、
三摩耶形 赤珠圖【図】
寶星陀羅尼経云何薩多、唐言軫宿、舎頭諫経
云像宿、々曜経云軫五星、婆毘怛利神、姓跋蹉那耶、唐

天文四星、所傳圖主廿八宿神在西方、具緣品釈三蔵（註247）
軌等廿八宿皆在西方、玄法寺軌依現圖列載之、（註248）
現圖在大主阿伽羅伽等之西、著耳環、目視左方、或（註249）
圖正視无瑠、右手覆掌當心、或圖竪掌屈頭中名（註250）
」（16オ）
執蓮上青珠、左手竪掌屈頭中指執蓮上々上赤（註251）
珠、或圖仰掌當斎大指微屈、山圖右手執三胎杵、左（註252）
手竪掌向外、竪左膝坐荷、或圖左脚在上、（註253）
摩伽（註254）
梵号 𑖨𑖿𑖪 種子 𑖨𑖽𑖫初 我不可得故、（註255）
三摩耶形 巳下六天同上、（註256）
寶星経云莫伽、唐言七星宿、舎頭諫経云土地宿、探玄（註257）
記云此云不悪主、宿曜経云六星薄伽神、姓瞿必略耶那（註258）
」（16ウ）
唐天文七星、現圖在訶悉多左内、右手向内執蓮上赤（註259）
珠、或圖竪掌向外屈頭中名執、左拳叉腰、或圖仰拳（註260）
頭指鉤屈置於斎下、竪右膝交脚坐、或圖右同以左（註261）
脚置右足上、面向左方、或圖面左、山圖右蓮左如始圖（註262）
此次圖有南方七曜衆之名、五大和尚又此次七曜衆、禅（註263）
門同之、即云諸軌在西方、私云圖及軌於此處列按之、（註264）
此方七宿惣題故不可爲別尊、名四方各有七宿而言在西（註265）
方者、其意可尋、此圖宿稱曜有密意耳、（註266）
」（17オ）
間錯（註267）
梵号 𑖨𑖽𑖫 種子 𑖨𑖽𑖪𑖿初 我不可得故、（註268）
寶星経云初破求、唐言張宿、私云此経梵号略、具可（註269）
言前發魯婁拏、今圖梵漢号異之、舎頭諫云前（註270）
徳宿、々曜経云六星婆藪神、姓瞿那律耶、現圖在訶（註271）
悉多在外、右手竪掌向外屈頭中名指、臂柱膝上、（註272）
或圖竪拳執蓮上赤珠、左手垂下向内、當斎執蓮（註273）
上赤珠、或圖仰掌垂指々端少屈、山圖右蓮左拳叉腰、（註274）
」（17ウ）
竪右膝坐、或圖交膝而坐、无冠繒、（註275）
自記（註276）
梵号 𑖨𑖿𑖪𑖼 種子 𑖨𑖿𑖪𑖼初 娑縛（註277）
寶星経云薩婆底、唐言冗宿、舎頭諫云善亢宿、々曜経云（註278）
一星風神、姓蕪那、唐天文四星、現圖在摩伽左、右手竪掌、（註279）
屈頭中名指、小指少開、或圖竪掌向外、屈頭中名、執蓮（註280）
上赤珠、左手徐垂當斎側向外申小指執蓮上赤珠、（註281）
或圖至右脇向内持蓮茎、山圖右蓮左拳叉腰、或圖（註282）
」（18オ）
竪右膝交坐、竪左膝坐、身向内院、或圖向左視果徳、（註283）
果徳（註284）
梵号 𑖨𑖽𑖫𑖿𑖨𑖽𑖫 種子 𑖨𑖽𑖫初 鉢羅（註285）
寶星経云第二破求、唐言翼宿、私云此梵号（註286）
訛略、具言後發魯婁拏、舎頭諫云北徳宿、々曜（註287）
云二星利耶摩神、姓遏唎黎、唐天文廿二星、現（註288）
圖在間錯左、右手竪掌屈无名指、以頭指著中（註289）
指背、或圖拳叉腰側、左手當斎向内、執蓮上赤（註290）
」（18ウ）
珠、或圖向内執蓮上緑珠、山圖右蓮左叉、坐荷少（註291）
立左膝、身向内坐、或圖左脚押右、无冠繒、（註292）
質怛羅（註293）
梵号 𑖨𑖽𑖫 種子 𑖨𑖽𑖪初 離一切遷変故、（註294）
寶星経云質多羅、唐言角宿、舎頭諫云采畫（註295）
宿、々曜云二星捶瑟室利神、姓僧伽羅耶那、唐天文（註296）
二星、現圖在自記左、右手竪掌屈頭中名指、執蓮上（註297）
赤珠、或圖白珠、左手至右脇向内持蓮華茎、或圖仰掌（註298）
」（19オ）
大指少立安斎側、山圖右蓮左、少竪右膝、交脚身向内（註299）
坐、或圖右脚押右、正向交坐、无冠繒、（註300）
尾舎佉（註301）
梵号 𑖨𑖾𑖫 種子 𑖨𑖾初 尾 言語道断故、（註302）
寶星経云穢舎佉、唐言觜宿、舎頭諫云善格宿、々曜（註303）
云四星因陀羅祇尼神、姓邏怛利迦、唐天文四星、現（註304）
圖在果徳左、右手屈臂仰掌垂指々頭微屈、舒大（註305）
指操開、以臂拄膝上、或圖竪掌屈頭中名執蓮上（註306）
」（19ウ）
青珠、左手拳當妳下、持蓮上赤珠、或圖覆掌、指頭（註307）
少垂置於斎下、山圖右拳覆心左蓮、蹲坐身向内、少竪（註308）
右脚交坐、私云此方七宿位錯乱可勘、（註309）
薬叉持明衆、（註310）
梵号 𑖨𑖿𑖪𑖽𑖫𑖿𑖨𑖽𑖫 種子 𑖨𑖫初 野（註311）
乗不可得故、三摩耶形（註312）
釈云有夜叉持明、是彼類中福徳最勝天趣之所攝（註313）
者、与世仙人又殊也、蔵品説諸薬叉女真言、印品説一（註314）
」（20オ）
切薬叉々々女印明、現圖在七曜衆之西、周身黄色、頻（註315）
眉怒目、或圖赤肉色、右手屈臂當於妳上、竪拳把（註316）
釵、或圖向内當乳房下持之、左手垂下當於腰側、竪（註317）
掌頭中名指微屈、或圖掌叉腰側、著衣、従前肩至（註318）
後下垂、不披袈裟、冠繒二端向上、耳著金璫、或圖著（註319）
天衣袈裟衣如常相、无繒瑠、山圖右釵、左拳叉腰、（註320）
向内院坐、或圖左脚押右交坐、右邊使者右手屈臂當（註321）
妳上、仰掌少屈四指於掌竪獨胎杵、或圖竪掌屈頭中（註322）
」（20ウ）
名執金栓本、左拳向心面向左、著被襆襠袈裟、无（註323）
冠繒、或圖持独鈷棒、面正向无襆襠、山圖右蓮左叉、（註324）
身向内院、面向左視尊、峻跪而坐、或圖正向、左邊使（註325）

者右手竪拳執矛、左手向内執矛、下向内院、立无（註326）
座、或圖同持三叉戟、山圖右釵左拳當胸有瑞、或圖（註327）
无瑞而著冠繒、（註328）
増長天王（註329）
梵号 𑖦𑖽𑖭𑖿𑖪 二 種子 𑖦 尾初（註330）
」（21オ）
三摩耶形 刀圖【図】（註331）
孔雀経云南方有大天王、名曰増長、是矩畔拏主以无（註332）
量百千矩畔拏而為眷属、守護南方、彼有子孫兄弟（註333）
軍将大臣雑使云々、具縁品釈六欲天在東方帝釈（註334）
眷属、青龍軌云左手持刀、右手把鞘根著地、所傳圖云（註335）
毘樓博叉王云々、私云恐悞也、現圖在於藥叉持明衆（註336）
左、通身赤肉色、被著甲冑肩上著緋端、目怒視、或（註337）
圖肉色、有鬚髯、右手拳當妳下持釵、或圖向身持、左（註338）
」（21ウ）
拳叉腰、或圖舒掌叉腰、山圖赤色、或圖面向右方、此圖无（註339）
座、（註340）
使者 名脱依坐位圖出（註341）
梵号 晩 種子 𑖭 躭通如々不可得故、（註342）
三摩耶形 刀圖【図】（註343）
経釈諸軌不説、現圖在増長天王左外邊、鬼形黒色、山（註344）
圖赤色、火髪聳上、怒目牛耳、上歯咬脣、或圖人耳、雙（註345）
手持一刀、或圖棒長跪向内院坐、无座、（註346）
已上、門北諸天、
」（22オ）

校註

（1）観智院→※この柿渋染表紙別紙貼付（後補）。

（2）胎蔵漫荼羅諸説不同記第八→「大悲胎蔵普通大曼荼羅記巻第八」長福寺本。

（3）別筆「釋迦壇南方諸天」→「（ナシ）」大正蔵、長福寺本。〔付記〕長福寺本は左下隅に二重郭墨印「□□長福寺□□」を捺す。仏全本は以下の通り。
○第三重乙南方自火天至左鳩盤荼
火天々々妃、婆藪仙、々々妃、阿詣羅仙、瞿曇仙、阿底麗仙、毘哩瞿仙、自在女、毘紐女、夜摩女、賢瓶、摩蝎、雙魚、羅睺羅、阿伽、羅伽、大主、七宿軫星翼亢、張角弓、藥叉使者、毘盧勒叉大使者、難陀、烏波難陀、阿修羅王、阿修羅衆已上門内四人、焔摩王黒闇天女、太山府君使者鬼、鬼衆、鬼衆女、拏吉尼、死鬼、成就仙等、摩尼羅、使者々々阿修羅眷属々々、迦樓羅、々々々女、鳩盤荼、

（4）蔵→「藏」大正蔵、仏全本。

（5）第八→「第八（傍書「九歟」）」仏全本。※仏全本は第九巻として調巻。

（6）

（7）一→「（ナシ）」長福寺本。

（8）号→「號」大正蔵、仏全本。

𑖦→「𑖭」仏全本。

護法金剛已下諸天外金剛部皆同→「護法金剛已下諸天外金剛部皆同」大正蔵、長福寺本、「護法金剛」仏全本。

（9）本不生故→「本不生故」仏全本、長福寺本。
三角印→「三角印」仏全本。

（10）具縁品云行者於東隅～持珠及深瓶→『大日経』巻一・入漫荼羅具縁真言品第二之一（『大正蔵』18―七c）。

（11）燄→「焔」大正蔵、仏全本。
為→「爲」大正蔵、仏全本。

（12）深紅→「深赤」長福寺本。
円→「圓」大正蔵、仏全本。

（13）釋云東南隅右列諸火天衆～火壇浄脩梵行之標幟也→『義釈』巻第四・入漫荼羅具縁真言品第二之二（『続天台』密教1―一四五頁上）。
右列→「布列」大正蔵、仏全本。〔参考〕「布（傍書「布㊣石」）列」『義釈』（『続天台』密教1―一四五頁上）。
燄→「焔」大正蔵、「熖」仏全本。

（14）

（15）燄→「焔」大正蔵、「熖」仏全本。
円→「圓」大正蔵、仏全本。
瓶→〔参考〕「缾（傍書「缾㋑㋺㊣㋩瓶」）」『義釈』（『続天台』密教1―一四五頁上）。

（16）為→「爲」大正蔵、仏全本。
詞→「祠」長福寺本。〔参考〕「祠」『義釈』（『続天台』密教1―一四五頁上）。

（17）恵→「慧」大正蔵、「惠」仏全本。〔参考〕「慧」『義釈』（『続天台』密教1―一四五頁上）。
浄脩→「淨修」大正蔵、仏全本、「淨脩」長福寺本。〔参考〕「淨修」『義釈』（『続天台』密教1―一四五頁上）。
標→〔参考〕「幖」『義釈』（『続天台』密教1―一四五頁上）。
秘密品釈云、以諸大仙圍繞之→〔参考〕『義釈』巻第十一・秘密漫荼羅品第十一（『続天台』密教1―五四一頁上）。

（18）釈→「釋」大正蔵、長福寺本。
大仙→「火仙」大正蔵、仏全本。
所傳圖云火天護方神、又有火天→〔参考〕『義釈』巻第四・阿闍梨所伝漫荼羅図位（『続天台』密教1―一五四頁）。

（19）三蔵儀軌云恵珠定澡瓶、掌印定持杖、青羊以為座→〔参考〕善無畏訳『大毘盧遮那経広大儀軌』巻中（『大正蔵』18―一〇四a）。〔補足〕輸婆迦羅『摂大毘盧遮那成仏神変加持経入蓮華胎蔵海会悲生曼荼羅広大念誦儀軌供養方便会』巻第二（『大正蔵』18―七七c）、法全集『大毘盧遮那成仏神変加持経蓮華胎蔵菩提幢標幟普通真言蔵広大成就瑜伽（青龍寺軌）』巻下（『大正蔵』18―一六〇b）。
蔵→「藏」大正蔵、仏全本。
恵→「慧」大正蔵、「惠」仏全本。
為→「爲」大正蔵、仏全本。

（20）鬢→「鬚」大正蔵、仏全本。

（21）无寶冠→「無冠寶」大正蔵、仏全本、「无冠寶」長福寺本。
瓔珞→「纓絡」仏全本、長福寺本。
被→「披」仏全本、長福寺本。
黒→「黑」大正蔵、仏全本。
褻→〔補足〕褻「カサヌ、キヌ」『類聚名義抄』法中一四一。
縵袴→〔補足〕縵「アミ」『類聚名義抄』法上一一四、袴「ハタカル、カロシ」『同』法上七七。

(22) 赤褌→「茄（傍書「无ク」）桶（傍書「无ク」）」仏全本。
无→「無」大正蔵、仏全本。
若著者記之可知→「（ナシ）」仏全本。
(23) 滿→「満」長福寺本。
掌々持→「掌持」仏全本、長福寺本。
(24) 鬘→「（ナシ）」仏全本。
(25) 或圖竪肘向掌指頭向右屈四指執→「（ナシ）」仏全本。
齊→「臍」大正蔵、「齊」仏全本、長福寺本。
(26) 持澡瓶、或圖向内當腰側執之→「持（朱傍書「澡」）瓶（朱傍書「或圖向内當腰側執之」）」長福寺本。
(27) 或圖大擧屈臂→「或圖大擧臂」大正蔵、「或圖擧臂」仏全本、「或圖（朱傍書「太」）擧屈臂」長福寺本。
(28) 諸天皆无身光→「諸天皆無身光」大正蔵、「（ナシ）」仏全本。
山圖→「（ナシ）」仏全本、長福寺本。
(29) 異此者記→「（ナシ）」仏全本。
(30) 二→「（ナシ）」長福寺本。
(31) 号→「號」大正蔵、仏全本。
→（傍書「」）」長福寺本。
→「」大正蔵。
(32)
(33) 三蔵儀軌云妃后侍左右→〔参考〕善無畏訳『大毘盧遮那経広大儀軌』巻中（『大正蔵』18―一〇四a）。〔補足〕輸婆迦羅『摂大毘盧遮那成仏神変加持経入蓮華胎蔵海会悲生曼荼攞広大念誦儀軌供養方便会』巻第二（『大正蔵』18―七七c）、法全集『大毘盧遮那成仏神変加持経蓮華胎蔵菩提幢標幟普通真言蔵広大成就瑜伽（青龍寺軌）』巻下（『大正蔵』18―一六〇b）。
所傳圖護方火神已外別有火天火天后→〔参考〕『義釈』巻第四・阿闍梨所伝漫荼羅図位（『続天台』密教1―一五四頁）。
(34) 褻→〔参照〕註21。
(35) 小腹→「腹」仏全本、長福寺本。
无→「無」大正蔵、仏全本。
(36) 瓔珞→「纓絡」長福寺本。
(37) 指頭→「指端」仏全本。
(38)
(39) 无頭身光→「无身光」大正蔵、仏全本。
无繒→「無繒」大正蔵、仏全本。
其焰飄上諸天→「其上諸天」仏全本。
(40)
(41)
(42) 号→「號」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「（一本下同）」仏全本。
（傍書「」）→「」大正蔵、仏全本。
嚩→「（ナシ）」仏全本。
語言道断故→「語言道斷故」大正蔵、仏全本、「語言道斷故」長福寺本。
(43) 躭通→「耽通」大正蔵、「躭通」仏全本、「躭通」長福寺本。
如々不可得故→「如々不可得故」仏全本、「如如不可得故」長福寺本。
数→「數」大正蔵、仏全本、長福寺本。
(44) 秘密品云婆私→『大日経』第五・秘密漫荼羅品第十一（『大正蔵』18―三五a）。
秘密品云→「秘密品」大正蔵、仏全本。
釈云縛私仙、即舊云婆藪仙者云々→『義釈』巻第十二・秘密漫荼羅品第十一之餘（『続天台』密教1―五四一頁上）。
若著者記之可知→「（ナシ）」仏全本。
(45) 所傳圖云婆私瑟吒大仙→『義釈』巻第四・阿闍梨所伝漫荼羅図位（『続天台』密教1―一五四頁上）。
小指→「少指」長福寺本。
(46) 開合蓮→「開蓮」仏全本。
斎→「臍」大正蔵、仏全本、「齊」長福寺本。
(47) 珠數→「珠数」長福寺本。
(48) 赤→「（ナシ）」大正蔵、仏全本。
(49)
(50)
(51) 号→「號」大正蔵、仏全本。
→「」仏全本。
含通→「含通」仏全本。
因不可得故→「因不可得故」仏全本、長福寺本。
(52) 開蓮→「開蓮華」仏全本。
(53) 経→「經」大正蔵、仏全本。
釈→「釋」大正蔵、仏全本、長福寺本。
玄法等儀軌列名→「婆藪仙仙妃」法全撰『大毘盧遮那成佛神變加持經蓮華胎藏悲生曼荼羅廣大成就儀軌供養方便会（玄法寺儀軌）』（18―一二一c、一三八c）、法全集『大毘盧遮那成佛神變加持經蓮華胎藏菩提幢標幟普通眞言藏廣大成就瑜伽（青龍寺儀軌）』（18―一〇六b）
玄法等→「玄法寺」大正蔵、仏全本。
女→「（ナシ）」仏全本。
(54) 无→「無」大正蔵、仏全本。
(55) 執一荷葉→「執荷葉」仏全本。
一合→「一合」仏全本、「一含」長福寺本。
(56) 執開合蓮→「執開蓮」仏全本。
或圖開蓮→「或圖合蓮」仏全本。
面→「身面」仏全本。
(57) 冠繒→「冠縵」仏全本。
(58) ※仏全本では「阿詣羅仙」の項は「驕答摩仙」と「阿趺哩仙」の間に記載。
(59) 号→「號」大正蔵、仏全本。
→「（ナシ）」仏全本、「（傍朱書「」）」長福寺本。
第一義諦不可得故→「第一義諦不可得故」仏全本、長福寺本。
(60)
(61) 秘密品云倪剌婆→『大日経』第五・秘密漫荼羅品第十一（『大正蔵』18―三五a）。
釈云光謁羅→『義釈』巻第十二・秘密漫荼羅品第十一之餘（『続天台』密教1―五四一頁上）。
釈→「釋」大正蔵、仏全本、長福寺本。
光→「央」大正蔵、「央（傍書「光原本」）」仏全本。〔参考〕「㚟」『義釈』（『続天台』密教1―五四一頁上）。
謁→「竭」大正蔵、仏全本、長福寺本。〔参考〕「竭」（『続天台』密教1―五四一頁上）。
汗→「汚」大正蔵。
(62) 従→「從」大正蔵、仏全本。
汗→「汚」大正蔵。
爛脱儀軌云蘖栗伽仙、亦名阿詣羅仙→〔参考〕覚超撰『胎蔵三密

儀軌』「同（＝安然）闍梨對記引玄法爛脱軌云蘗栗伽仙亦名阿諸囉仙」（『大正蔵』75―六一一b）。安然撰『胎蔵界大法対受記』第四「私云、爛脱本云（中略）瞿蘖栗仙、亦名阿詣羅仙」（『大正蔵』75―八五a）。法全撰『大毘盧遮那成仏神変加持経蓮華胎蔵悲生曼荼羅広大成就儀軌供養方便会』「蘗栗伽仙真言曰」（『同』18―一三九b）。

(63) 謁→「竭」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(64) 右→「左」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(65) 小指少屈→「小指小屈」大正蔵、仏全本、「少指少屈」長福寺本。

(66) 斎→「臍」大正蔵、仏全本。「齊」長福寺本。

(67) 琉璃→「瑠璃」大正蔵、仏全本。

(68) 左拳→「左・（傍書「拳」）叉」長福寺本。

(69) 驕答摩仙→「驕答摩仙（傍註「久本在阿詣羅仙之後」）」仏全本。

(70) 号→「號」大正蔵、仏全本。

(71) 乗不可得故→「乗不可得故」大正蔵、「乗不可得故」仏全本、「乗不可得故」長福寺本。

(72) 秘密品云驕答摩→『大日経』第五・秘密漫荼羅品第十一（『大正蔵』18―三五a）。
釈云瞿曇仙虚空中行欲有二涕汗下地生甘蔗、日炙生二子為釈王者是云々→瞿曇仙虚（虚㊀ナシ）空中行欲（欲ハナシ）有二涕（涕イ諦ロ種諦）汚（汚ホヘ汗）下（下㊀ナシ）汚（汚ロ㊁ホヘナシ）地、地生（地生イハ㊁生ホ生地）甘蔗日炙（炙イ～ヘ炙）生二子為釋王者是也（也㊁ホヘナシ）『義釈』巻第十二・秘密漫荼羅品第十一之餘（『続天台』密教1―五四一頁上）。

(73) 驕答摩→「驕・（左傍註「ク答」）摩」仏全本。

(74) 釈→「釋」大正蔵、仏全本、長福寺本。〔付記〕なお、長福寺本では、「驕答摩仙」のこの「秘密品云」以下、続く「阿跋哩仙」の「三摩耶形、澡瓶【図】」まで（当該翻刻文における72行目から82行目に相当分）を転写時に脱落させており、そのことの気が付いた筆者自らが別紙の表に「驕答摩仙」の脱落分を、裏に「阿跋哩仙」の脱落分を記して「驕答摩仙」の項の上に貼り込んでいる。

(75) 汗→「汚」大正蔵。

(76) 為→「爲」大正蔵、仏全本。

(77) 釈→「釋」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(78) 所傳圖在未建荼大仙之右→『義釈』巻第四・阿闍梨所伝漫荼羅図位（『続天台』密教1―一五四頁）。

(79) 未→「末」大正蔵、仏全本。

(80) 无→「無」大正蔵、仏全本。

(81) 瓔珞→「纓絡」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(82) 斎→「臍」大正蔵、仏全本、「齊」長福寺本。

(83) 釧璫→「釧璫」仏全本。

(84) 纓絡→「纓絡」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(85) 号→「號」大正蔵、仏全本。

(86) 跌→「趺」大正蔵、仏全本。

(87) 釈→「釋」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(88) 所傳圖在未建荼大仙之右→『義釈』巻第四・阿闍梨所伝漫荼羅図位（『続天台』密教1―一五四頁）。

(89) 未→「末」大正蔵、仏全本。

(90) 无→「無」大正蔵、仏全本。

(91) 瓔珞→「纓絡」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(92) 斎→「臍」大正蔵、仏全本、「齊」長福寺本。

(93) 釧璫→「釧璫」仏全本。

(94) 跌→「趺」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(95) 号→「號」大正蔵、仏全本。

(96) 柱→「拄」大正蔵、仏全本。

(97) 斎→「臍」大正蔵、仏全本。「齊」長福寺本。

(98) 蓮華→「蓮花」大正蔵、仏全本。

(99) 琉璃→「瑠璃」大正蔵、仏全本。

(100) 左拳→「左・（傍書「拳」）叉」長福寺本。

(101) 驕答摩仙→「驕答摩仙（傍註「久本在阿詣羅仙之後」）」仏全本。

(102) 号→「號」大正蔵、仏全本。

(103) 乗不可得故→「乗不可得故」大正蔵、「乗不可得故」仏全本、「乗不可得故」長福寺本。

(104) 秘密品云驕答摩→『大日経』第五・秘密漫荼羅品第十一（『大正蔵』18―三五a）。
釈云瞿曇仙虚空中行欲有二涕汗下地生甘蔗、日炙生二子為釈王者是云々→瞿曇仙虚（虚㊀ナシ）空中行欲（欲ハナシ）有二涕（涕イ諦ロ種諦）汚（汚ホヘ汗）下（下㊀ナシ）汚（汚ロ㊁ホヘナシ）地、地生（地生イハ㊁生ホ生地）甘蔗日炙（炙イ～ヘ炙）生二子為釋王者是也（也㊁ホヘナシ）『義釈』巻第十二・秘密漫荼羅品第十一之餘（『続天台』密教1―五四一頁上）。

(105) 驕答摩→「驕・（左傍註「ク答」）摩」仏全本。

(106) 釈→「釋」大正蔵、仏全本、長福寺本。〔付記〕なお、長福寺本では、「驕答摩仙」のこの「秘密品云」以下、続く「阿跋哩仙」の「三摩耶形、澡瓶【図】」まで（当該翻刻文における72行目から82行目に相当分）を転写時に脱落させており、そのことの気が付いた筆者自らが別紙の表に「驕答摩仙」の脱落分を、裏に「阿跋哩仙」の脱落分を記して「驕答摩仙」の項の上に貼り込んでいる。

(107) 汗→「汚」大正蔵。

(108) 為→「爲」大正蔵、仏全本。

(109) 釈→「釋」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(110) 所傳圖在未建荼大仙之右→『義釈』巻第四・阿闍梨所伝漫荼羅図位（『続天台』密教1―一五四頁）。

(111) 未→「末」大正蔵、仏全本。

(112) 无→「無」大正蔵、仏全本。

(113) 瓔珞→「纓絡」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(114) 斎→「臍」大正蔵、仏全本、「齊」長福寺本。

(115) 釧璫→「釧璫」仏全本。

(116) 纓絡→「纓絡」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(117) 斎→「臍」大正蔵、仏全本、「齊」長福寺本。

(118) 為→「爲」大正蔵、仏全本。

(119) 跌→「趺」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(120) 号→「號」大正蔵、仏全本。

(121) 柱→「拄」大正蔵、仏全本。

(122) 斎→「臍」大正蔵、仏全本。「齊」長福寺本。

(123) 蓮華→「蓮花」大正蔵、仏全本。

(124) 琉璃→「瑠璃」大正蔵、仏全本。

(125) 左拳→「左・（傍書「拳」）叉」長福寺本。

(126) 驕答摩仙→「驕答摩仙（傍註「久本在阿詣羅仙之後」）」仏全本。

(127) 号→「號」大正蔵、仏全本。

(128) 乗不可得故→「乗不可得故」大正蔵、「乗不可得故」仏全本、「乗不可得故」長福寺本。

(129) 秘密品云驕答摩→『大日経』第五・秘密漫荼羅品第十一（『大正蔵』18―三五a）。
釈云瞿曇仙虚空中行欲有二涕汗下地生甘蔗、日炙生二子為釈王者是云々→瞿曇仙虚（虚㊀ナシ）空中行欲（欲ハナシ）有二涕（涕イ諦ロ種諦）汚（汚ホヘ汗）下（下㊀ナシ）汚（汚ロ㊁ホヘナシ）地、地生（地生イハ㊁生ホ生地）甘蔗日炙（炙イ～ヘ炙）生二子為釋王者是也（也㊁ホヘナシ）『義釈』巻第十二・秘密漫荼羅品第十一之餘（『続天台』密教1―五四一頁上）。

(130) 驕答摩→「驕・（左傍註「ク答」）摩」仏全本。

(131) 釈→「釋」大正蔵、仏全本、長福寺本。〔付記〕なお、長福寺本では、「驕答摩仙」のこの「秘密品云」以下、続く「阿跋哩仙」の「三摩耶形、澡瓶【図】」まで（当該翻刻文における72行目から82行目に相当分）を転写時に脱落させており、そのことの気が付いた筆者自らが別紙の表に「驕答摩仙」の脱落分を、裏に「阿跋哩仙」の脱落分を記して「驕答摩仙」の項の上に貼り込んでいる。

(132) 汗→「汚」大正蔵。

(133) 為→「爲」大正蔵、仏全本。

(134) 釈→「釋」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(135) 所傳圖在未建荼大仙之右→『義釈』巻第四・阿闍梨所伝漫荼羅図位（『続天台』密教1―一五四頁）。

(136) 未→「末」大正蔵、仏全本。

(137) 无→「無」大正蔵、仏全本。

(138) 瓔珞→「纓絡」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(139) 斎→「臍」大正蔵、仏全本、「齊」長福寺本。

(140) 釧璫→「釧璫」仏全本。

(141) 纓絡→「纓絡」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(142) 斎→「臍」大正蔵、仏全本、「齊」長福寺本。

(143) 為→「爲」大正蔵、仏全本。

(144) 跌→「趺」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(145) 号→「號」大正蔵、仏全本。

(146) 柱→「拄」大正蔵、仏全本。

(147) 斎→「臍」大正蔵、仏全本。「齊」長福寺本。

(148) 蓮華→「蓮花」大正蔵、仏全本。

(149) 琉璃→「瑠璃」大正蔵、仏全本。

(150) 左拳→「左・（傍書「拳」）叉」長福寺本。

(151) 驕答摩仙→「驕答摩仙（傍註「久本在阿詣羅仙之後」）」仏全本。

(152) 号→「號」大正蔵、仏全本。

(153) 乗不可得故→「乗不可得故」大正蔵、「乗不可得故」仏全本、「乗不可得故」長福寺本。

(154) 秘密品云驕答摩→『大日経』第五・秘密漫荼羅品第十一（『大正蔵』18―三五a）。
釈云瞿曇仙虚空中行欲有二涕汗下地生甘蔗、日炙生二子為釈王者是云々→瞿曇仙虚（虚㊀ナシ）空中行欲（欲ハナシ）有二涕（涕イ諦ロ種諦）汚（汚ホヘ汗）下（下㊀ナシ）汚（汚ロ㊁ホヘナシ）地、地生（地生イハ㊁生ホ生地）甘蔗日炙（炙イ～ヘ炙）生二子為釋王者是也（也㊁ホヘナシ）『義釈』巻第十二・秘密漫荼羅品第十一之餘（『続天台』密教1―五四一頁上）。

(155) 驕答摩→「驕・（左傍註「ク答」）摩」仏全本。

(156) 釈→「釋」大正蔵、仏全本、長福寺本。〔付記〕なお、長福寺本では、「驕答摩仙」のこの「秘密品云」以下、続く「阿跋哩仙」の「三摩耶形、澡瓶【図】」まで（当該翻刻文における72行目から82行目に相当分）を転写時に脱落させており、そのことの気が付いた筆者自らが別紙の表に「驕答摩仙」の脱落分を、裏に「阿跋哩仙」の脱落分を記して「驕答摩仙」の項の上に貼り込んでいる。

(157) 汗→「汚」大正蔵。

(158) 為→「爲」大正蔵、仏全本。

(159) 釈→「釋」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(160) 所傳圖在未建荼大仙之右→『義釈』巻第四・阿闍梨所伝漫荼羅図位（『続天台』密教1―一五四頁）。

(161) 未→「末」大正蔵、仏全本。

(162) 无→「無」大正蔵、仏全本。

(163) 瓔珞→「纓絡」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(164) 斎→「臍」大正蔵、仏全本、「齊」長福寺本。

(165) 釧璫→「釧璫」仏全本。

(166) 纓絡→「纓絡」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(167) 斎→「臍」大正蔵、仏全本、「齊」長福寺本。

(168) 為→「爲」大正蔵、仏全本。

(169) 跌→「趺」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(170) 号→「號」大正蔵、仏全本。

(171) 乗不可得故→「乗不可得故」大正蔵、「乗不可得故」仏全本、「乗不可得故」長福寺本。

(172) 秘密品云驕答摩→『大日経』第五・秘密漫荼羅品第十一（『大正蔵』18―三五a）。
釈云瞿曇仙虚空中行欲有二涕汗下地生甘蔗、日炙生二子為釈王者是云々→瞿曇仙虚（虚㊀ナシ）空中行欲（欲ハナシ）有二涕（涕イ諦ロ種諦）汚（汚ホヘ汗）下（下㊀ナシ）汚（汚ロ㊁ホヘナシ）地、地生（地生イハ㊁生ホ生地）甘蔗日炙（炙イ～ヘ炙）生二子為釋王者是也（也㊁ホヘナシ）『義釈』巻第十二・秘密漫荼羅品第十一之餘（『続天台』密教1―五四一頁上）。

(173) 驕答摩→「驕・（左傍註「ク答」）摩」仏全本。

(174) 釈→「釋」大正蔵、仏全本、長福寺本。〔付記〕なお、長福寺本では、「驕答摩仙」のこの「秘密品云」以下、続く「阿跋哩仙」の「三摩耶形、澡瓶【図】」まで（当該翻刻文における72行目から82行目に相当分）を転写時に脱落させており、そのことの気が付いた筆者自らが別紙の表に「驕答摩仙」の脱落分を、裏に「阿跋哩仙」の脱落分を記して「驕答摩仙」の項の上に貼り込んでいる。

(175) 汗→「汚」大正蔵。

(176) 為→「爲」大正蔵、仏全本。

(177) 釈→「釋」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(178) 所傳圖在未建荼大仙之右→『義釈』巻第四・阿闍梨所伝漫荼羅図位（『続天台』密教1―一五四頁）。

(179) 未→「末」大正蔵、仏全本。

(180) 无→「無」大正蔵、仏全本。

(181) 瓔珞→「纓絡」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(182) 斎→「臍」大正蔵、仏全本。「齊」長福寺本。

(183) 釧璫→「釧璫」仏全本。

(184) 纓絡→「纓絡」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(185) 或圖覆掌餘同→「（朱傍書「或圖覆掌餘同」）」長福寺本。

(186) 斎→「臍」大正蔵、仏全本。「齊」長福寺本。

(187) 号→「號」大正蔵、仏全本。

(188) 因不可得故→「因不可得故」仏全本、長福寺本。

(189) 経→「經」大正蔵、仏全本。

(190) 五大院云蘗栗伽仙、亦云毘哩瞿→「私云、爛脱本云（中略）瞿蘖栗仙、亦名阿詣羅仙」安然撰『胎蔵界大法対受記』第四（『大正蔵』75―八五a）。〔参考〕「竭伽與毘哩瞿同」杲宝撰『大日経疏演奥鈔』（『大正蔵』59―五三四d）。

(191) 无→「無」大正蔵、仏全本。

(192) 瓔→「（ナシ）」仏全本。

(193) 妳→「嬭」大正蔵、仏全本。

(194) 山圖此次→「此次」仏全本。

(195) 数→「數」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(196) 数→「數」仏全本、長福寺本。

(197) 胸→「腰」仏全本。

(198) 秘密品云迦攝、驕答摩～而居火壇内→『大日経』第五・秘密漫荼羅品第十一（『大正蔵』18―三五a）。

(199) 未→〔参考〕「末」『大日経』（『大正蔵』18―三五a）。

(100) 韋陀等→「韋陀手」大正蔵、長福寺本、「等（傍書「韋歟」）手」仏全本。

(101) 釈云謂迦葉瞿曇仙等～見此手印知是何論何部等也→『義釈』巻第十二・秘密漫荼羅品第十一之餘（『続天台』密教1―五四一頁上）。

(102) 釈→「釋」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(103) 火宅→「火院」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(104) 跋→「跋」長福寺本。

(105) 駄通→「駄通」大正蔵、「駄通」仏全本。

(106) 如々不可得故→「如々不可得故」仏全本、長福寺本。

(107) 経→「經」大正蔵、仏全本。

(108) 五大院云阿跋哩仙、亦名末建拏→「私云、爛脱本云（中略）阿跋哩仙、亦名阿底哩與仙」安然撰『胎蔵界大法対受記』第四（『大正蔵』75―八五a）。〔参考〕「此中末建拏與阿跋哩同」杲宝撰『大日経疏演奥鈔』（『大正蔵』59―五三四d）。

(109) 跋→「跋」大正蔵、仏全本。

(110) 禅→「禪」大正蔵、仏全本。

(111) 覆拳→「作拳覆之」長福寺本。

(112) 柱→「拄」大正蔵、仏全本。

(113) 或圖覆掌餘同→「（朱傍書「或圖覆掌餘同」）」長福寺本。

(114) 斎→「臍」大正蔵、仏全本。「齊」長福寺本。

(115) 禅→「禪」大正蔵、仏全本。

(116) 禅門云此説非→出典未詳。

(117) 跋→「跋」大正蔵、仏全本。

(118) 経→「經」大正蔵、仏全本。

(119) 五大院云蘗栗伽仙、亦云毘哩瞿→「私云、爛脱本云（中略）瞿蘖栗仙、亦名阿詣羅仙」安然撰『胎蔵界大法対受記』第四（『大正蔵』75―八五a）。〔参考〕「竭伽與毘哩瞿同」杲宝撰『大日経疏演奥鈔』（『大正蔵』59―五三四d）。

(120) 蘗→「蘖」大正蔵、仏全本。

(121) 禅門云非也→出典未詳。

(122) 禅→「禪」大正蔵、仏全本。

(123) 无→「無」大正蔵、仏全本。

(124) 唯著→「（ナシ）」仏全本。

(125) 瓔→「（ナシ）」仏全本。

(126) 有釧環→「（ナシ）」仏全本。

(127) 無瓔璫→「無瓔璫」大正蔵、「（ナシ）」仏全本。「无纓璫」長福寺本。

(128) 釧→「釧」大正蔵、仏全本。

(129) 釵→「劍」大正蔵、「劒」仏全本。

(130) 斎→「臍」大正蔵、仏全本。「齊」長福寺本。

(131) 山圖此次→「此次」仏全本。

(132) 数→「數」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(133) 数→「數」仏全本、長福寺本。

(134) 腰→「腰」仏全本。

(135) 秘密品云迦攝、驕答摩～而居火壇内→『大日経』第五・秘密漫荼羅品第十一（『大正蔵』18―三五a）。

(136) 未→〔参考〕「末」『大日経』（『大正蔵』18―三五a）。

(137) 韋陀等→「韋陀手」大正蔵、長福寺本、「等（傍書「韋歟」）手」仏全本。

(138) 釈云謂迦葉瞿曇仙等～見此手印知是何論何部等也→『義釈』巻第十二・秘密漫荼羅品第十一之餘（『続天台』密教1―五四一頁上）。

(139) 釈→「釋」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(140) 火宅→「火院」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(102) 赤名→「赤（割註「考色一作赤色」）名」仏全本。
(103) 黒→「黒」大正蔵、仏全本。
(104) 何論→「阿論」大正蔵。
(105) 無纓絡→「無瓔珞」大正蔵、仏全本。
(106) 所傳圖火天護方神右～迦葉大仙→『義釈』巻第四・阿闍梨所伝漫荼羅図位（『続天台』密教1―一五四～一五五頁）。
(107) 披→「被」大正蔵、仏全本。
(108) 火天々々后→「火天火天后」大正蔵、仏全本、長福寺本。
(109) 唯有→「有」仏全本。
(110) 纓環→「纓絡」仏全本。
(111) 謁→「竭」大正蔵、仏全本、長福寺本。
(112) 花→「華」大正蔵、仏全本。
(113) 或圖向内→「向内」仏全本。
(114) 左有諸火仙等～比丘衆、童男菩薩→『義釈』巻第四・阿闍梨所伝漫荼羅図位（『続天台』密教1―一五八～一五九頁）。
(115) 下視→「不視」大正蔵、仏全本。
(116) 諸大仙→「諸大（傍書「火原本」）仙」仏全本。
(117) 押→「相（割註「考相一作指」）」仏全本、
(118) 芒嚕多→「芒嚕多（傍書「芒原本下同」）」仏全本。
(119) 此圖正向→「（ナシ）」仏全本、「或圖正向」長福寺本。
(120) 没票拏→「没栗拏」大正蔵、仏全本、長福寺本。
(121) 号→「號」大正蔵、仏全本。
(122) 句嚕→「句路」大正蔵、仏全本。
(123) 𑖦→「𑖦」仏全本。
(124) 社咤→「社吒」大正蔵。
(125) 別通→「（ナシ）」大正蔵、仏全本。
(126) 十二火→「十二天」仏全本。
(127) 我不可得故→「我不可得故」仏全本、長福寺本。
(128) 菩薩衆→「菩薩」大正蔵、「（ナシ）」仏全本。
(129) 東南蓮華→「東南蓮花」長福寺本。
(130) 蓮花→「蓮華」大正蔵、仏全本。
(131) 童男菩薩→「童男菩薩菩薩衆」仏全本。
(132) 釈云圖云持明仙者～与世仙人又殊也→『義釈』巻第四・入漫荼羅具縁真言品二之二（『続天台』密教1―一六一頁下）。
(133) 釈→「釋」大正蔵、仏全本、長福寺本。
(134) 圍→「圖」仏全本。
(135) 脩→「修」長福寺本。
(136) 蓮花→「蓮華」大正蔵、仏全本。
(137) 与→「與」大正蔵、仏全本。
(138) 其十二火天経中略説形像～餘如圖中所示也→『義釈』巻第四・入漫荼羅具縁真言品二之二（『続天台』密教1―一六二頁上）。
(139) 経→「經」大正蔵、仏全本。
(140) 真→「眞」大正蔵、仏全本。
(141) 釈云若第三院十方佛等～其具種子字如経中真言所説→『義釈』巻第四・入漫荼羅具縁真言品二之二（『続天台』密教1―一六一頁上）。
(142) 少差→「小差」大正蔵、仏全本、長福寺本。
(143) 火人之相→「大人之相」大正蔵、仏全本、長福寺本。
(144) 経→「經」大正蔵、仏全本。
(145) 真→「眞」大正蔵、仏全本。
(146) 号→「號」大正蔵、仏全本。
忙→「忙」仏全本。
我不可得故→「我不可得故」仏全本、長福寺本。
所傳圖云哋捺唎→『義釈』巻第四・阿闍梨所伝漫荼羅図位（『続天台』密教1―一五七頁）。
具縁品云七母→『大日経』巻第一・入漫荼羅具縁真言品第二之一（『大正蔵』18―八a）。
釋云東邊作黒夜→「東邊作黒夜神」『義釈』巻第四・入漫荼羅具縁真言品第二之二（『続天台』密教1―一四五頁下）。
黒→「黒」大正蔵、仏全本。
又云七母皆女鬼也、其形悉皆黒色→『義釈』巻第四・入漫荼羅具縁真言品第二之二（『続天台』密教1―一四五頁下）。

『義釈』（『続天台』密教1―三〇二頁上）。

(147)  印捺哩→「印捺哩」大正蔵、「捺哩」大正蔵、「」仏全本。

 末羅→「（一本）」仏全本。

末羅→「未囉」長福寺本。〔参考〕「末羅囉（傍書「羅イ㋑ナシ」）」『義釈』（『続天台』密教1―三〇二頁上）。

(148) 四弭→「」大正蔵、仏全本。

真→「眞」大正蔵、仏全本。

怛→「但」仏全本。

(149) 所傳圖位、七母同在此間、云遮悶拏、嬌吠唎、吠瑟拏味、嬌利私云此名略也→『義釈』巻第四・阿闍梨所傳漫荼羅図位（『続天台』密教1―一五七頁）。

嬌吠唎→「嬌吠利」仏全本。

(150) 嬌唎→「嬌利」大正蔵、仏全本。

燕捺利、咾捺利→「燕捺唎、咾捺唎」大正蔵、仏全本、長福寺本。

理趣釈云、七母女天是摩迦羅天眷属也→〔参考〕『大楽金剛不空真実三昧耶経般若波羅蜜多理趣釈（理趣釈）』（『大正蔵』19―六一六a）。

(151) 釈→「釋」大正蔵、仏全本、長福寺本。

摩→【書き込み】「摩・（傍書「訶」）」「摩訶」大正蔵、長福寺本。〔参考〕「摩訶」『理趣釈』（『大正蔵』19―六一六a）。

属→「屬」大正蔵、仏全本。

此天等亦有曼荼羅、中央畫摩訶迦羅、以七母天圍繞云々→〔参考〕『理趣釈』（『大正蔵』19―六一六a）。

(152) 圍繞→「圍遶」大正蔵、仏全本、長福寺本。

摩訶迦者～理顕也云々→〔参考〕『理趣釈』（『大正蔵』19―六一六a）。

(153) 无→「無」大正蔵。

導→「礙」大正蔵、仏全本、長福寺本。〔参考〕「礙」『理趣釈』（『大正蔵』19―六一六a）。

(154)(155) 理顕→「理顯」大正蔵、「顯理」仏全本。〔参考〕「顯理」『理趣釈』（『大正蔵』19―六一六a）。

孔雀経云十二天母、其名曰没囉、憾銘二合～耶摩賀迦囉→〔参考〕『仏母孔雀大明王経』（『大正蔵』19―四二九b～c）。

経→「經」大正蔵、仏全本。

十二天母→「十二天母」大正蔵。

没囉→「没羅」長福寺本。

(156) 嘮→「勞」大正蔵、仏全本。

(157) 摩囉→「麼羅」大正蔵、仏全本、「麽囉」長福寺本。

縛葉→「嚩葉」大正蔵、仏全本、長福寺本。

阿尾→「阿𠰥」大正蔵、長福寺本。〔参考〕「𠰥」『仏母孔雀大明王経』（『大正蔵』19―四二九c）。

(158) 耶→〔参考〕「曳」『仏母孔雀大明王経』（『大正蔵』19―四二九c）。

摩賀→〔参考〕「摩訶」『仏母孔雀大明王経』（『大正蔵』19―四二九c）。

(159) 摩→「麼」大正蔵、仏全本。

釈→「釋」大正蔵、仏全本、長福寺本。

縛→「嚩」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(160) 自在女→「在自女」長福寺本。

在南→「在南」大正蔵、仏全本。

(161) 方→「方」大正蔵、仏全本。

釈云倶吠離也、在毘沙門方云々→「倶吠離也、作頂骨印在毘沙門方」『義釈』巻第十二・秘密漫荼羅品第十一之餘（『続天台』密教1―五四一頁下）。〔補足〕「義釈智證第二云、倶尾羅天者○応是毘沙門天也、故義釈云、倶吠離也」曇寂撰『大日経住心品疏釈私記』（『大正蔵』60―五九二c）。

(162) 釈→「釋」大正蔵、仏全本、長福寺本。

在北方→「在北方是地下点也」大正蔵、「在北方是地下点也」仏全本。

(163) 南→「東南」大正蔵、仏全本、長福寺本。

是地下天也→「是地下点也」大正蔵、「（ナシ）」仏全本。

可撿→「可撿」大正蔵、仏全本。

(164)(165) 号→「號」大正蔵、仏全本。

→「」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(166) 我不可得故→「我不可得故」長福寺本。

(167) 秘密品云當知欲摩后以没揭羅印→『大日経』巻第五・秘密漫荼羅品第十一（『大正蔵』18―三五a）。

(168) 釈云七母等天同用没藥羅印此是也→『義釈』巻第十二・秘密漫荼羅品第十一之餘（『続天台』密教1―五四一頁下）。

釈→「釋」大正蔵、仏全本。

具縁品釈云閻摩之西焰摩后→「焰摩之西焰摩后」『義釈』巻第四・入漫荼羅具縁真言品第二之二（『続天台』密教1―一四五頁下）。

釈→「釋」大正蔵、仏全本。

(169) 所傳圖閻摩后在閻摩左→『義釈』巻第四・阿闍梨所伝漫荼羅図位（『続天台』密教1―一五六頁）。

左邊→「左外邊」仏全本、長福寺本。

(170) 三古→「三胡」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(171) 環々中青→「環環中青」大正蔵、「杯正中有」仏全本、「環正中青」長福寺本。

(172)(173) 无→「無」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(174) 号→「號」大正蔵、仏全本。

初→「初」大正蔵、

(175) 離作行故→「離作行故」長福寺本。

(176) 神護云→出典未詳。

撿大集経月蔵分云護持南閻浮提七星張翼軫角亢氐三曜日辰星太白三天僮女綽呵迦若兜羅→「天仙七宿三曜三天童女護持養育南閻浮提、彼天仙七宿者星張翼軫角亢氐、三曜者日辰星太白星、三天童女者綽呵迦若兜羅」曇無讖訳『大方等大集経』巻五十一・月蔵分第十四諸悪鬼神得敬信品第八之二（『大正蔵』13―三四二a）。

(177) 経→「經」大正蔵、仏全本。

蔵→「藏」大正蔵、仏全本。

七星→「七宿（傍書「ク宮」）星」仏全本、「七宿星」長福寺本。

(178) 張→「張（傍書「張」）」仏全本。

(179) 冗→「亢」大正蔵、仏全本。

呵→「訶」仏全本。

左→「在」大正蔵、長福寺本。

呵→「訶」仏全本。

又云鳩槃→「又云（傍書「ク曰」）鳩槃」仏全本。〔参考〕「所言辰者。有十二種（中略）十一名鳩槃」『大方大集経』巻第五十六・月蔵分第十二星宿摂受品第十八（『大正蔵』13―三七三a）。

又云水器神→「水器之神主當其月十二月」『大方等大集経』巻四二・日蔵分中星宿品第八之二（『大正蔵』13―二八〇c）。

(180) 経→「經」大正蔵、仏全本。
与→「與」大正蔵、仏全本。
(181) 宿曜経云凡十二宮神即七曜之躔次各有神形以彰宮之象也、又一宮配管列宿九足云々→『文殊師利菩薩及諸仙所説吉凶時日善悪宿曜経（以下、宿曜経）』巻上（『大正蔵』21—三八七a～b）。
経→「經」大正蔵、仏全本。
(182)
(183) 日月諸曜衆生業力置於空中乗風而止當須弥之半邇乾陀羅之上運行於二十七宿十二宮神→『宿曜経』巻上（『大正蔵』21—三八七b）。
乗→「乘」大正蔵、仏全本。
(184) 弥→「彌」大正蔵、仏全本。
於→「（ナシ）」大正蔵。
(185) 又云第七宮虚二足危四足室三足鎮星位焉、其神如瓶、故名瓶宮→『宿曜経』巻上（『大正蔵』21—三八七c）。
危四足→「危二足」大正蔵。
(186) 鎮→「鎭」大正蔵、仏全本。
大集経云鳩槃→註179参照。
経→「經」大正蔵、仏全本。
具縁品釈云、言宿直者謂二十七宿也、分周天作十二房猶如此間十二次、毎次有九足周天凡一百八足毎宿均得四足即是云々→『義釈』巻第三・入漫荼羅具縁真言品第二（『続天台』密教1—一〇二頁下）。
(187) 釈→「釋」大正蔵、仏全本。
二十→「廿」仏全本、長福寺本。
(188)
(189) 今案具縁品釈云、三蔵軌等月夫眷属有廿八宿十二宮神、皆在西□毘方→〔参考〕輪婆迦羅訳『摂大毘盧遮那成仏神変加持経入蓮華胎蔵海会悲生曼荼攞広大念誦儀軌供養方便会』「西門之南次、月天之眷屬二十八宿神宮神等圍」（『大正蔵』18—七八c）。
(190) 案→「按」大正蔵、仏全本。
釈→「釋」大正蔵、長福寺本。
夫→【書き込み】上部別筆「天」。「天」大正蔵、仏全本、長福寺本。
属→「屬」大正蔵、仏全本、長福寺本。
廿→「二十」大正蔵。
西□毘方→「西□毘（見消ち「ゝゝ」）方」。「西方」大正蔵、仏全本、長福寺本。
所傳圖主十二宮神、亦在西方→『義釈』巻第四・阿闍梨所伝漫荼羅図位（『続天台』密教1—一五八頁）。
(191)
(192) 密印品説一切執印真言、儀軌為七曜十二宮神九執真言→〔参考〕「一切執曜印真言曰」『大日経』巻第四・密印品第九「七曜十二宮神九執眞言曰」法全集『大毘盧遮那成仏神変加持経蓮華胎藏菩提幢標幟普通真言藏広大成就瑜伽』（『大正蔵』18—一六三a）。
真→「眞」大正蔵、仏全本。
儀軌→「義凡」仏全本。
(193) 為→「爲」大正蔵、仏全本。
寶→「寶」大正蔵、仏全本。
挿→「挾」仏全本。
含→「合」長福寺本。
(194) 花→「華」大正蔵、仏全本。
无→「無」大正蔵、「花無、山圖以繪纏頸在蓮華上」仏全本、「花無、山圖以繪纏頸在蓮花上」長福寺本。
(195) 魔掲→「魔掲（梵）」仏全本。
(196) 号→「號」大正蔵、仏全本。
吾我不可得故→「（ナシ）」仏全本、「五我不可得故」長福寺本。
(197)
(198) 月蔵経云摩伽羅→「所言辰者。有十二種（中略）十名摩伽羅」『大方大集経』巻第五十六・月蔵分第十二星宿摂受品第十八（『大正蔵』13—三七三a）。
蔵→「藏」大正蔵、仏全本。
摩伽羅→「摩（梵）伽羅（梵）」仏全本。
又云、摩謁神→〔参考〕「摩竭魚」達磨笈多訳『大方等大集経菩薩念佛三昧分』（『大正蔵』13—八三〇c）。
摩謁神→「摩謁（右傍書「竭」）神」。「摩竭神」大正蔵、長福寺本。「磨（梵）竭（梵）神」仏全本。
孔雀経云摩謁→「摩竭龍王」義浄訳『大孔雀呪王経』（『大正蔵』19—四三二a、四七〇b）。
経→「經」大正蔵、仏全本。
摩謁→「摩竭」大正蔵、仏全本、長福寺本。
梁本云鯨→「鯨龍王」梁扶南三藏僧伽婆羅訳『孔雀呪王経』（『大正蔵』19—四五四c）。〔参考〕「摩竭幢、或摩柯羅墮闍、或摩竭珊、梁言鯨魚」『孔雀経音義』（『大正蔵』61—七八三b）。
(199) 又云摩柯羅鰭魚→「摩柯羅墮闍夜叉、梁言鱛魚」『孔雀呪王経』（『大正蔵』19—四五一b）。
(200)
(201) 灌頂経云摩伽婁→「摩伽婁龍王」『灌頂七萬二千神王護比丘呪経』（『大正蔵』21—五二一b）。
(202) 経→「經」大正蔵、仏全本。
(203) 宿曜云第六宮、斗三足、女四足、虚二足、鎮星位焉、其神如磨故名磨宮→『宿曜経』巻上（『大正蔵』21—三八七c）。
(204) 鎮→「鎭」大正蔵、仏全本。
(205) 号→「號」大正蔵、仏全本。
(206) 我不可得故→「我不可得故」仏全本、長福寺本。
(207)
(208) 月蔵経云弥那→「所言辰者。有十二種（中略）十二名弥那」『大方大集経』巻第五十六・月蔵分第十二星宿摂受品第十八（『大正蔵』13—三七三a）。
(209) 経→「經」大正蔵、仏全本。
(210) 弥→「彌」大正蔵、仏全本。
(211) 那→【書き込み】「那（傍書「又云天魚神」）」。「那、又云天魚神」大正蔵、仏全本、長福寺本。〔参考〕「天魚之神」『大方大集経』第四十二・日蔵分中星宿品第八之二（『大正蔵』13—二八一a）。宿曜云第八宮、室一足、壁四足奎四足→『宿曜経』巻上（『大正蔵』21—三八七c）。
(212) 者→「着」長福寺本。
号→「號」大正蔵、仏全本。
→「（梵）」仏全本。
離一切諸塵染故→「離一切諸塵染故」仏全本、長福寺本。

(213) 攘災決云常隠行不見逢日月則蝕、謂之暗虚、常遅行於天行無徐疾十八年一周天→『七曜攘災決』（『大正蔵』21―四四二b）。

(214) 決→「決」大正蔵、仏全本。

具縁品釋三蔵軌等九執皆在東方、爲日天眷属也→「日天眷属布諸執曜」『義釈』巻第四・入漫荼羅具縁真言品第二之二（『続天台』密教1―一四五頁下）。〔参考〕「般若寺疏鈔第一云、日天眷屬者七曜衆」杲宝撰『大日経疏演奥鈔』（『大正蔵』59―一五九c）。

(215) 爲→「為」長福寺本。

(216) 属→「屬」大正蔵、仏全本。

釈曰仡嘌呵、此別是一趣、非人非鬼也、能恐怖人非人所持者是也、今非此也、是曜若近宿即合九執爲定也→『義釈』巻第十・密印品第九（『続天台』密教1―四八三頁下）。

(217) 釈→「釋」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(218) 仡→「紇」仏全本。

(219) 呵→「訶」仏全本。

(220) 爲→「為」長福寺本

(221) 在→「（ナシ）」大正蔵、仏全本。

(222) 頭→「頸（割註「考頸一作頭」）」仏全本。

(223) 无→「無」仏全本。

(224) 与→「與」大正蔵、仏全本。

(225) 斎→「臍」大正蔵、「齊」仏全本、「齋」長福寺本。

(226) 着→「著」大正蔵。

(227) 女衣→「天衣」大正蔵。

(228) 両→「兩」大正蔵、仏全本。

(229) 号→「號」大正蔵、仏全本。

(230) 初→「（ナシ）」仏全本。

(231) 通→「通」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(232) 宿曜経云木精歳星、胡名嗢没斯、彼斯名本森勿、天竺名勿哩訶上婆跛底合→『宿曜経』巻下（『大正蔵』21―三九八b）。

(233) 経→「經」大正蔵、仏全本。

嗢→「喝」仏全本。

(234) 本→「木」仏全本。〔参考〕「木」『宿曜経』（『大正蔵』21―三九八b）。

又云空精廣九由旬→「空精歳星廣九由旬」『宿曜経』巻上（『大正蔵』21―三八七b）。

(235) 攘災決云径一百里、其色青、光明十二年一周天強→歳星東方木之精一名攝提、徑一百里、其色青而光明、所在有福與太白合宿有喪其行十三年一周天」『七曜攘災決』（『大正蔵』21―四二九b）。

(236) 決→「決」大正蔵、仏全本。

(237) 径→「徑」大正蔵、仏全本。

(238) 径→「徑」大正蔵、仏全本。

(239) 二魚左→「二魚右」仏全本。

(240) 向左→「向右」仏全本。

(241) 无→「無」大正蔵。

(242) 大指→「（ナシ）」仏全本。

(243) 覆掌叉腰→「（ナシ）」仏全本、長福寺本。

(244) 俛→「俛」大正蔵、仏全本。〔補足〕俛「フス、ウツフス」『類聚名義抄』佛上一〇。

(245) 右左→「右」仏全本、「（ナシ）」長福寺本。

(246) 或圖如常→「或圖如常」長福寺本。

(247) 号→「號」大正蔵、仏全本。

(248) 本不生故→「本不生故」仏全本、長福寺本。

(249) 宿曜経云火精熒惑、胡名雲漢、波斯名勢森勿天竺名盆誐囉迦→『宿曜経』巻下（『大正蔵』21―三九八b）。

経→「經」大正蔵、仏全本。

決→「決」大正蔵。

径→「徑」大正蔵、仏全本。

又云廣七由旬→「火精熒惑廣七由旬」『宿曜経』巻上（『大正蔵』21―三八七b）。

攘災決云径七十里、其色赤明二年一周天強→「營惑南方火之精一曰罰星、徑七十里其色赤、明所在分野多疾病、其星二年一周天強」『七曜攘災決』（『大正蔵』21―四四二b）。

(250) 微→「（ナシ）」仏全本。

(251) 大指向→「向（傍書「ク内ク向」）」仏全本。

(252) 腰側面向→「腰側竪奉於矛著繪面向」仏全本、「腰側竪奉持矛著・（傍書「繪左」）面向」長福寺本。

(253) 或圖左脚押右→「或圖右脚抽（傍書「抽圭」）左」仏全本。※後出「或圖左脚押右」と重複することからいずれかが衍文とみられる。

(254) 面→「（ナシ）」仏全本。

(255) 或圖左脚押右→「（ナシ）」仏全本。

(256) 訶悉多→「訶悉多（傍書「軫宿」）」仏全本。

(257) 号→「號」大正蔵、仏全本。

(258) 𑖦𑖽𑖨→「𑖦𑖽𑖨」大正蔵。

因不可得故→「因不可得故」仏全本、長福寺本。

(259) 寶星陀羅尼経云何薩多、唐言軫宿→波羅頗蜜多羅訳『宝星陀羅尼経』（『大正蔵』13―五五六a）。

(260) 寶→「寶」大正蔵、仏全本。

(261) 経→「經」大正蔵、仏全本。

(262) 舎頭諫経云像宿→『舎頭諫太子二十八宿経』（『大正蔵』21―四一五b）。

(263) 々曜経云軫五星婆毘怛利神、姓跋蹉那耶、唐天文四星→「軫五星形如手毘婆怛利神也姓跋蹉耶（中略）中国天文軫四星」『宿曜経』巻上（『大正蔵』21―三八九b）。

(264) 経→「經」大正蔵、仏全本。

(265) 所傳圖主二十八宿神在西方→〔参考〕『義釈』巻第四・阿闍梨所伝漫荼羅図位（『続天台』密教1―一五八頁）。

(266) 廿→「二十」大正蔵。

具縁品釈三蔵軌等二十八宿皆在西方→〔参考〕「西門之南。與日天相対応置月天、乗白鵝車、於其左右置廿七宿十二宮神等、以為眷属」『義釈』巻第四・入漫荼羅具縁真言品第二之二（『続天台』密教1―一四六頁下）。

(267) 釈→「釋」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(268) 蔵→「藏」大正蔵、仏全本。

(269) 廿→「二十」大正蔵。

(270) 玄法寺軌→「玄法等軌」仏全本。

(271) 大主→「天主」仏全本、長福寺本。

(272) 著耳環→「（ナシ）」仏全本。

(273) 目視→「視」大正蔵、「着身踝現（割註「考着已下一本作差耳踝目視」）」仏全本。

(250) 正視→「正」仏全本。
无瑠→「無瑠」大正蔵、「無瑠」仏全本、「无瑠」長福寺本。
或圖竪掌屈頭中名→「（ナシ）」仏全本。
(251) 執蓮上青珠→「（ナシ）」仏全本。
蓮上々上→「蓮上」大正蔵、「蓮々上」仏全本、長福寺本。
(252) 齊→「臍」大正蔵、仏全本、「齊」長福寺本。
山圖→「大圖」大正蔵。
(253) 摩伽→「摩伽（傍書「星宿」）」仏全本。
(254) 号→「號」大正蔵、仏全本。
(255) 我不可得故→「我不可得故」仏全本。
(256) 寶星経云莫伽、唐言七宿星→『宝星陀羅尼経』（『大正蔵』13—五五五c）。
(257) 寶→「寶」大正蔵、仏全本。
経→「經」大正蔵、仏全本。
舎頭諫経云土地宿→『舎頭諫太子二十八宿経』（『大正蔵』21—四一五b）。
(258) 探玄記云此云不悪主→「摩伽是星名、此云不悪主十二月」『華厳経探玄記』（『大正蔵』35—一二七b）。
悪主→「慈主」仏全本。
宿曜経云六星薄伽神、姓瞿必略耶那、唐天文七星→「星六星形如猛、薄伽神也、姓瞿必毘耶那（中略）中國天文星七星」『宿曜経』巻上（『大正蔵』21—三八九a）。
(259) 経→「經」大正蔵、仏全本。
(260) 向内→「（ナシ）」大正蔵、仏全本。
(261) 或圖竪掌向外屈頭中名執→「（ナシ）」仏全本。
斎→「臍」大正蔵、仏全本、「齊」長福寺本。
(262) 或圖右同→「或圖」仏全本、「或圖同」長福寺本。
面左→「面向左」大正蔵、仏全本。
(263) 次七→【書き込み】「次・（傍書「立」）七」、「次立七」大正蔵、長福寺本。
五大和尚又此次七曜衆→〔参考〕「次置於摩伽　七曜衆」安然撰『胎蔵界大法対受記』（『大正蔵』75—一〇九c）。
(264) 禅→「禪」大正蔵、仏全本。
(265) 門→「門和尚（傍書「ヽヽ」）」長福寺本。
(266) (267) (268) 号→「號」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵。
我不可得故→「我不可得故」仏全本、長福寺本。
(269) 寶星経云初破求、唐言張宿→『宝星陀羅尼経』（『大正蔵』13—五五六a）。
(270) 寶→「寶」大正蔵、仏全本。
経→「經」大正蔵、仏全本。
私云此経梵号略、具可言前發魯婁拏、今圖梵漢号異之→〔参考〕「前發魯窶拏」『孔雀呪王経』（『大正蔵』19—四七四a）。
(271) 号→「號」大正蔵、仏全本。
舎頭諫云前徳宿→『舎頭諫太子二十八宿経』（『大正蔵』21—四一五b）。
々曜経云六星婆藪神、姓瞿那律耶→「張二星形如杵、婆藪神也、姓瞿那律耶（中略）中国天文六星」『宿曜経』巻上（『大正蔵』21—三八九b）。
(272) 々曜→「宿曜」大正蔵、仏全本。
経→「經」大正蔵、仏全本。
在外→「左外」大正蔵、仏全本、長福寺本。
(273) 臂柱膝上→「（ナシ）」仏全本。
垂下→「下垂」長福寺本。
(274) 斎→「臍」大正蔵、仏全本、「齊」長福寺本。
指々端→「指端」仏全本、長福寺本。
(275) 无冠繒→「無冠繒」大正蔵、「（ナシ）」仏全本、長福寺本。
(276) (277) 号→「號」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵。
(278) 寶星経云薩婆底、唐言冗宿→『宝星陀羅尼経』（『大正蔵』13—五五六a）。
寶→「寶」大正蔵、仏全本。
経→「經」大正蔵、仏全本。
冗→「亢」大正蔵、仏全本。〔参考〕「亢」『宝星陀羅尼経』（『大正蔵』13—五五六a）。
舎頭諫云善元宿→「善元宿」『舎頭諫太子二十八宿経』（『大正蔵』21—四一五c）。
々曜経云一星風神、姓蔫那、唐天文四星→「亢一星形如火珠風神也姓蘇那（中略）中国天文亢四星」『宿曜経』巻上（『大正蔵』21—三八九b）。
(279) 々曜→「宿曜」太陽蔵、仏全本。
蔫→「蘇」大正蔵、仏全本。
(280) (281) 或圖竪掌向外、屈頭中名、執蓮→「（ナシ）」仏全本。
上赤珠→「（ナシ）」仏全本。
斎→「臍」大正蔵、仏全本。
(282) 或圖→「竪」長福寺本。
茎→「莖」大正蔵、仏全本。
山圖右蓮左拳叉腰、或圖→「（ナシ）」仏全本。
(283) 竪左膝坐→「山圖」長福寺本。
竪左膝坐、身向内院、或圖向左視果徳→「山圖右蓮右拳叉腰」仏全本。
(284) (285) 号→「號」大正蔵、仏全本。
→「（ナシ）」仏全本、長福寺本。
(286) 寶星経云第二破求、唐言翼宿→『宝星陀羅尼経』（『大正蔵』13—五五六a）。
寶→「寶」大正蔵、仏全本。
経→「經」大正蔵、仏全本。
私云此梵号訛略、具言後發魯窶拏→〔参考〕「後發魯窶拏」『孔雀呪王経』（『大正蔵』19—四七四a）。
(287) 号→「號」大正蔵、仏全本。
舎頭諫云北徳宿→『舎頭諫太子二十八宿経』（『大正蔵』21—四一五b）。
々曜云二星利耶摩神、姓遏哆黎、唐天文廿二星→「翼二星形如跏趺、利耶摩、姓遏哆（中略）中国天文翼二十二星」『宿曜経』巻上（『大正蔵』21—三八九b）。
(288) 々曜→「宿曜」大正蔵、仏全本。
廿→「二十」大正蔵、仏全本、長福寺本。
(289) 无→「無」大正蔵、仏全本。

以頭指↓「微以頭指」長福寺本。

(290) 斎↓「臍」大正蔵、仏全本、「齊」長福寺本。

(291) 向内↓「(ナシ)」仏全本。

少↓「小」長福寺本。

(292) 左脚押右↓「左脚押右交坐」仏全本、長福寺本。
无冠繒↓「無冠繒」大正蔵、仏全本、「(ナシ)」長福寺本。

(293) 号↓「號」大正蔵、仏全本。

(294) 離一切遷変故↓「離一切遷變故」大正蔵、「離一切遷變故」仏全本、長福寺本。

(295) 寶星経云質多羅、唐言角宿↓『宝星陀羅尼経』(『大正蔵』13―五五六ａ)。

寶↓「寶」大正蔵、仏全本。
経↓「經」大正蔵、仏全本。
舎頭諫云采畫宿↓『舎頭諫太子二十八宿経』(『大正蔵』21―四一五ｃ)。

(296) 々曜云二星埵瑟室利神、姓僧伽羅耶那、唐天文二星↓「角二星形如長幢、瑟室利神也、姓僧伽羅耶那(中略)中国天文角二星」『宿曜経』巻上(『大正蔵』21―三八九ｂ)。

(297) 右手↓「・(傍書「左」)手」長福寺本。
至右脇向内↓「(ナシ)」仏全本。

(298) 茎↓「莖」大正蔵、仏全本、長福寺本。
或圖↓「(ナシ)」仏全本。

(299) 少立↓「小立」大正蔵。

(300) 斎↓「臍」大正蔵、仏全本、「齊」長福寺本。
押右↓「押左」大正蔵、仏全本。
无冠繒↓「無冠繒」大正蔵、仏全本、【朱傍追記】「无冠繒」長福寺本。

(301) 号↓「號」大正蔵、仏全本。

(302) 𑖦𑖿↓「𑖦𑖿」仏全本、長福寺本。
言語道断故↓「言語道斷故」大正蔵、「言語道斷故」仏全本、「言語道斷故」長福寺本。

(303) 寶星経云蕪舎佉、唐言解宿↓「蕪舎佉、唐言觚宿」『宝星陀羅尼経』(『大正蔵』13―五五六ａ)。

寶↓「寶」大正蔵、仏全本。
経↓「經」大正蔵、仏全本、「(ナシ)」長福寺本。
蕪↓「蘇」大正蔵、仏全本。
舎頭諫云善格宿↓「善挌宿」『舎頭諫太子二十八宿経』(『大正蔵』21―四一五ｃ)。〔補足〕「善格宿」『舎頭諫太子二十八宿経』(『大正蔵』21―四一七ｂ)。

(304) 々曜云四星因陀羅祇尼神、姓邏怛利迦、唐天文四星↓「氐四星形如牛角、因伽陀羅祇尼神也、姓邏怛利(中略)中國天文氐四星」『宿曜経』巻上(『大正蔵』21―三八九ｃ)。

々曜↓「宿曜」大正蔵、仏全本。

(305) 操開↓「擇開」大正蔵、仏全本、長福寺本。〔補足〕揲「キル」

(306) 桀「キル」『類聚名義抄』佛下本一一八。

拄↓「柱」長福寺本。

或圖竪掌屈頭中名執蓮上↓「(ナシ)」仏全本。

(307) 青珠↓「(ナシ)」仏全本。

妳↓「嬭」大正蔵、「(ナシ)」仏全本。

下↓「(ナシ)」仏全本。

或圖覆掌、指頭↓「(ナシ)」仏全本。

(308) 少垂置於↓「(ナシ)」仏全本。

斎下↓「臍下」大正蔵、「(ナシ)」仏全本。「齊下竪」長福寺本。

(309) 私云此方七宿位錯乱可勘↓「私云此方七宿位錯亂可勘」大正蔵、「(ナシ)」仏全本。

(310) 号↓「號」大正蔵、仏全本。

(311) 𑖦𑖿↓「(ナシ)」仏全本。

(312) 乗不可得故↓「乘不可得故」大正蔵、「乘不可得故」長福寺本。

(313) 釈云有夜叉持明、是彼類中福徳最勝天趣之所攝者、与世仙人又殊也↓『義釈』巻第四・入漫荼羅具縁真言品第二之二(『続天台』密教1―一六一頁下)。

釈↓「釋」大正蔵、仏全本、長福寺本。
与↓「與」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(314) 蔵品説諸薬叉女真言↓「諸藥叉女眞言曰」『大日経』巻第二・入漫荼羅具縁真言品第二之餘(『大正蔵』18―一七ａ)。

蔵↓「藏」大正蔵、仏全本。
真↓「眞」大正蔵、仏全本。
印品説一切薬叉々々女印明↓「是一切藥叉印、真言曰」『大日経』巻第四・密印品第九(『大正蔵』18―二九ｃ)。

(315) 印明↓「明」仏全本。

(316) 頻↓「嚬」大正蔵、仏全本。
妳↓「嬭」大正蔵、仏全本。

(317) 釵↓「劍」大正蔵、「劒」仏全本。

(318) 垂下當於腰側↓「(ナシ)」仏全本。

(319) 著衣↓【書き込み】「著・(傍書「天」)衣」。「著天衣」大正蔵、仏全本、長福寺本。

従前↓「從前」大正蔵、仏全本。

(320) 肩至↓「垂下當於腰側、掩肩至」仏全本、「掩肩至」長福寺本。〔補足〕掩「オホフ」『類聚名義抄』佛下本五三。

(321) 无↓「無」大正蔵。

(322) 釵↓「劍」大正蔵、「劒」仏全本。

(323) 使者↓「使」仏全本。

(324) 妳↓「嬭」大正蔵、仏全本。

(325) 金栓本↓〔補足〕栓「ハシラ」『類聚名義抄』佛下本一一三。

向心↓「大向心」仏全本。

(326) 面向左↓「(ナシ)」仏全本、長福寺本。

著被↓「着」仏全本。

(327) 无↓「無」大正蔵、

或圖↓「(ナシ)」仏全本。

持独鈷棒、面正向↓「(ナシ)」仏全本、長福寺本。

无纏繒↓「(ナシ)」仏全本。

鈷↓「胠」大正蔵。

(325) 右手竪拳執矛、左手向内執矛、下向↓「(ナシ)」仏全本。

(326) 内院立无↓「無」仏全本、「内院立・(朱傍書「无」)」長福寺本。

(327) 座↓「(朱傍書「座」)」長福寺本。

或圖同持三叉戟↓「(ナシ)」仏全本、「(朱傍書「或圖同持三叉戟」)」長福寺本。

釵↓「劍」大正蔵、「劒」仏全本。

巻第八（前半）引用典籍・口決類一覧
（算用数字は翻刻文の行番号を示す）

今按、158、
今案、189、
今云、162、
灌頂経云、199、
孔雀経云、198、155 、332、
梁本（孔雀呪王経）云、198、
又（梁本孔雀呪王経）云、199、
玄法儀軌、191、215、
玄法寺儀軌列名、53、
玄法寺軌、248、
五大和尚、263、
五大院云、83、90、
坐位圖、340、
三蔵儀軌（広大念誦儀軌供養方便会）云、19、33、
三蔵軌（広大念誦儀軌供養方便会）、189、215、247、
舎頭諫経云、245、257、
舎頭諫云、270、278、287、295、303、
宿曜経云、181、226、236、246、258、271、278、
又（宿曜経）云、185、227、237、
宿曜云、199、206、287、296、303、
所傳圖云、18、45、125、136、335、
所傳圖、74、104、169、190、247、
所傳圖位、149、
攘災決云、213、228、237、
神護云、176、
青龍軌云、335
禅門云、83、90、136、
禅門、263、
即（禅門）云、264、
大集経月蔵分云、176、
大集経（月蔵分）云、186、
（大集経）月蔵経云、198、
又（大集経月蔵分）云、179、
月蔵経（大集経月蔵分）云、206、
又（大集経日蔵分）云、179、
又（大方等大集経菩薩念佛三昧分か）云、198、
大日経
　印品説、314、
　具縁品云：10、125、
　蔵品説、314、
　秘密品云、44、61、72、98、135、167、
　秘密品、63、
　密印品説、191、
大日経義釈
　具縁品釈、189、214、247、334、
　具縁品釈云、168、186、
　（具縁品）釈云、13、111、125、313、
　又（具縁品釈）云、116、126、
　蔵品釈云、143、
　（秘密品）釈云、17、61、72、101、135、161、167、
探玄記云、257、
寶星陀羅尼経云、245、
寶星（陀羅尼）経云、257、269、278、286、295、303、
此（寶星陀羅尼）経、269、
爛脱儀軌云、62、
爛脱軌、64、
理趣釈云、150、
私云、63、141、178、226、264、269、286、309、336、
私案、135、

有璫→「有耳璫」仏全本、長福寺本。(328)
无→「無」大正蔵、仏全本。(329)
号→「號」大正蔵、仏全本。(330)
二→「（ナシ）」仏全本。(331)
尾初→「尾初 語言道断故」長福寺本。
孔雀経云南方有大天王、名曰増長、是矩畔拏主以无量百千矩畔拏而為眷属、守護南方、彼有子孫兄弟軍将大臣雑使云々→『仏母大孔雀明王経』（『大正蔵』21―四二一ａ）。(332)
経→「經」大正蔵、仏全本。
无→「無」大正蔵、仏全本。
為→「爲」大正蔵、仏全本。(333)
属→「屬」大正蔵、仏全本。
具縁品釈六欲天在東方帝釈眷属→〔参考〕「東方五頂之南、當畫因陀羅釋天之主（中略）及餘諸眷属、謂舍脂夫人及六欲天等具如圖中所示也」『義釈』巻第四・入漫荼羅具縁真言品第二之二（『続天台』密教1―一四五頁下）。(334)
釈→「釋」大正蔵、仏全本、長福寺本。
属→「屬」大正蔵、仏全本。(335)
青龍軌云左手持刀、右手把鞘根著地→「左手持刀、右把槊根著地」法全撰『大毘盧遮那成仏神変加持経蓮華胎蔵菩提幢標幟普通真言蔵広大成就瑜伽』（『大正蔵』18―一六一ａ）。
鞘→「稍」大正蔵、「稍」長福寺本。
所傳圖云、毘樓博叉王云々→〔参考〕『義釈』巻第四・阿闍梨所伝漫荼羅図位（『続天台』密教1―一五六頁）。(336)
悞→「誤」大正蔵。(337)
緋→「誹」大正蔵。(338)
妳→「嬭」大正蔵、仏全本。
釼→「劍」大正蔵、「劔」仏全本。
或圖向身持→「（ナシ）」仏全本。(339)
此圖无座→「此圖無座」大正蔵、「此図可尋」仏全本。(340)
「名脱依坐位圖出」→【朱書書き込み】、「朱名脱依坐位圖出」大正蔵、「名脱依坐位圖出」仏全本、「朱脱依坐位圖上」長福寺本。
坐位図→〔参考〕「毘楼勒叉天王赤肉色、持利剣大使者黒肉色大忿怒形取剣」『秘蔵記』末・「胎蔵曼荼羅尊位」（『大正蔵』図像1―一四ｂ）。(341)
号→「號」大正蔵、仏全本。
腕→「（ナシ）」大正蔵、仏全本、「脱」長福寺本。
躭通→「耽通」大正蔵、「躭通」仏全本。(342)
如々不可得故→「（ナシ）」仏全本、「如々不可得故」長福寺本。
刀圖→「刀圖如次上」仏全本。(343)
経→「經」大正蔵、仏全本。
釈→「釋」大正蔵、仏全本、長福寺本。
黒→「黑」大正蔵、仏全本。(344)
脣→「唇」大正蔵、仏全本。
雙→「両」大正蔵、仏全本、「雙両」長福寺本。(345)
一刀→「刀」大正蔵、仏全本。
无→「無」大正蔵。(346)





(1オ)



(表紙裏)

(表紙)



(3オ)



(2ウ)

(2オ)



(1ウ)

(キ7)



(ケ6)

(キ6)



(ケ5)

(キ5)



(ケ4)

(キ4)



(ケ3)

（9オ）

（8ウ）

（8オ）

（7ウ）

（11オ）

（10ウ）

（10オ）

（9ウ）

（15オ）



（14ウ）

（14オ）



（13ウ）

（13オ）



（12ウ）

（12オ）



（11ウ）

（15ウ）

（16オ）

（16ウ）

（17オ）

（17ウ）

（18オ）

（18ウ）

（19オ）

（21オ）



（20ウ）

（20オ）



（19ウ）

（22オ）



（21ウ）